

2. 鳥 類

1 石川県の鳥類相

石川県はほぼ全県的に森林に覆われるが、日本海に突き出した能登半島と長い海岸線、白山の高山帯があり、能登地方の岩礁や内湾、加賀地方の平野や湖沼など多様な環境を有している。また日本のほぼ中央に位置し、いわゆる北方系、南方系の両方の性質を持った鳥類が生息する。また能登半島沖に位置する舳倉島は日本列島を移動する渡り鳥の中継地として知られ、国内では稀な大陸系の種も数多く記録されている。これらのことから記録される種類は多種多様で、同じ北陸であっても富山県や福井県より記録数をはるかに多い。

1997年から2018年までの20年の間、毎年約300種以上が記録され、これまで本県で記録された鳥種を累計すると、456種（絶滅種1種と外来種・家畜種3種を含む）にのぼり、年間記録種数、確認総種数ともに全国でも有数となっている。もっとも記録数と自然の豊かさは比例するものでもない。

県内で記録された種（絶滅種を除く）を生活史によって分類すると、その構成は留鳥74種（16%）、夏鳥60種（13%）、冬鳥95種（21%）、旅鳥65種（14%）、迷鳥158種（35%）、外来種・家畜種3種となる。外洋に面して長い海岸線がある県では、概して渡り鳥や海洋性の種などの記録が多くなるが、本県にもこの傾向がある。また冬鳥が多いのは日本海側で大陸から越冬のために飛来する種が多いこと、迷鳥が多いのは日本海に突き出した石川県の地勢的条件により記録される渡り鳥の種が多いことによると考えられる。

このように冬鳥や迷鳥を含む渡り鳥（特に大陸系の種を含む小鳥類）が記録種の多くを占めていることが、石川県の鳥類相を最も特徴づける点であると考えられる。

2 選定基準

(1) 第一次選定について

本県での記録種（外来種・家畜種を除く）453種のうち、原則として過去10年間で5回以上観察記録のある種を中心に第一次選定を行い、県版レッドデータブック選定の対象として295種を選出した。これらは、県内で定期的に繁殖、越冬、通過する種であり、不定期に渡来するいわゆる迷鳥的な種（県内での位置付け）は国のレッドデータブック掲載種であっても選定対象から除外した。ただし、国の掲載種で5回以上の記録のある種は、その重要性を考慮し選定対象とした。また観察の機会の少ない海洋性や夜行性の種、また著しく隠蔽性が高く観察が困難な種でも、定期的な生息が予測される種については2回以下の記録でも選定対象とした。なお、野外の観察では亜種の同定は困難である場合が多いため、選定は種のレベルにとどめた。

(2) 第二次選定について

選定対象とした295種について、下記の基準で第二次選定を行ない、74種に絞り込むとともに、過去に生息していた記録があるが、現在、生息が確認されていない1種を加え、レッドデータブック選定種を75種とした。前回の「いしかわレッドデータブック2009〈動物編〉」の選定種68種より7種類増えことになる。ちなみに新たに選定された種類は16種類、除外された種は9種類だった。

(選定基準)

- 過去20年間（情報不足のものは10年間）で生息数または、観察例が著しく減少しているもの、及びその記録の傾向から今後減少が予測されるもの。
- 過去20年間（情報不足のものは10年間）で生息地が著しく減少したもの、及びその記録の傾向から今後減少が予測されるもの。
- 生物地理学的にみて重要な個体群、及び県内で局地的な分布をする個体群及びその生息地

d. 生物地理学的にみて希少種と予測されるが観察例等が少なく判定するだけの情報がないもの。

3 選定種一覧と概要

選定された75種を、それぞれのカテゴリーに評価分類した。評価分類にあたっては種の繁殖（域）、越冬（域）、休息中継（域）の状況を評価の基本とし、国レベル、世界レベルの生息状況も考慮して検討した。その結果、「絶滅」1種、「絶滅危惧Ⅰ類」16種、「絶滅危惧Ⅱ類」20種、「準絶滅危惧」29種、「情報不足」5種、「地域個体群」4種となった。（表1）

表1

選定種一覧

絶滅 1種 ヒメクロウミツバメ
絶滅危惧Ⅰ類 16種 ライチョウ、コクガン、コウノトリ、サンカノゴイ、ヨシゴイ、トキ、クロツラヘラサギ、ヒクイナ、ヘラシギ、タマシギ、コアジサシ、カンムリウミスズメ、チュウヒ、イヌワシ、チゴモズ、アカモズ
絶滅危惧Ⅱ類 20種 ヒシクイ、マガン、カリガネ、トモエガモ、ミゾゴイ、マナヅル、ナベヅル、ヨタカ、イカルチドリ、オオジシギ、オジロワシ、クマタカ、オオコノハズク、コノハズク、アオバズク、ブッポウソウ、ヤイロチョウ、コシアカツバメ、ノジコ、コジュリン
準絶滅危惧種 29種 ヤマドリ、オシドリ、シノリガモ、ビロードキンクロ、クロガモ、ササゴイ、クロサギ、ヘラサギ、バン、カッコウ、シロチドリ、ホウロクシギ、ツルシギ、タカブシギ、イソシギ、ヤマシギ、ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、アカシヨウビン、ハヤブサ、コヨシキリ、セッカ、クロツグミ、ホオアカ
情報不足 5種 マダラウミスズメ、ハリオアマツバメ、アマツバメ、キバシリ、ジュウイチ
地域個体群 4種 七ツ島のオオミズナギドリ繁殖個体群、七ツ島のウミウ繁殖個体群、ミユビシギ加賀海岸の越冬群、白山のイワヒバリ繁殖個体群

「絶滅」はヒメクロウミツバメが新たな指定となった。七ツ島大島だけに繁殖記録のあった海洋鳥であるが、1982年より記録がなく絶滅判定となった。

「絶滅危惧Ⅰ類」は16種類、前回より1種類増加した。このうちライチョウ、トキは前回の絶滅から、今回は絶滅危惧Ⅰ類に分類された。トキは佐渡で野生放鳥されたものが飛来し、長期間住みついたことから、またライチョウは2008年に白山で再発見され2016年まで観察された。どちらの種も今後も飛来が予想されることから、Ⅰ類に選定された。この他、今回新たに選定されたのはコウノトリとタマシギの2種である。コウノトリはこれまでは記録も少なく迷鳥的であるという判断だったが、兵庫県豊岡市で放鳥された個体が自然繁殖し、県内への飛来も増えていることから、新たに対象に加えてランク付けを行った。またタマシギは最近の減少が著しく記録も激減していることから、前回の絶滅危惧Ⅱ類からランクアップした。

「絶滅危惧Ⅱ類」は20種類、前回と同じだが入れ替わりがあった。新たに選定されたオオジシギは、近年、能登半島で繁殖行動が観察されるようになり、県内の情報が集まってきたことから情報不足からランクアップした。またミゾゴイ、クマタカは前回、絶滅危惧Ⅰ類にランクされていたが、近年の調査によって新たな生息地が見つかったことからランクを下げたものである。マナヅル、ナベヅルは近年の記録が増え、越冬とは言えないまでも、短期間ではあるが定期的に飛来するようになったため選定された。

「準絶滅危惧」は29種類、前回より4種類増加した他、いくつか入れ替わりがあった。新たに選定されたのは、近年、観察例が少なく減少が予想されるビロードキンクロ、クロガモ、ヤマドリなどである。また、オオタカ、サシバ、ハヤブサなど、前回「絶滅危惧Ⅱ類」にランクされていたいくつかの種類のランクを下げた。これらは新しく得られた生息情報から判断し、個体数は多くないものの生息状況は安定していると判断したものである。

「情報不足」は1種類増えて5種類。客観的に判断しうる情報の少ないものをこれにあてた。このうちハリオアマツバメ、アマツバメは繁殖の可能性が高いものの情報がなく、またジュウイチは個体数が減っていると推定されるものの情報が少なく、選定された。マダラウミスズメはもともと観察例がごく少なく、温暖化による越冬域の北上なのか、生息を脅かす要因があったのか、判断しうる情報がないためである。

「地域個体群」としては4個体群。1個体群増加した。前回と同じく、オオミズナギドリ及びウミウは七ツ島の繁殖個体群を、ミュビシギはかほく市から能美市海岸にかけての越冬個体群、新たに白山のイワヒバリ繁殖個体群を選定している。

この他、9種類を石川県レッドデータブックリストから除外した。県内では多くはないものの日本国内では普通種である種、その後の情報収集で県内では生息地、個体数とも安定しており、県内で絶滅の恐れはないと判断された種である。(以上表2参照)

なお種の解説については、種の配列及び学名、和名は「日本鳥類目録第7版」(日本鳥学会2012)に従い、原則的に亜種名は省略した。

表2 「いしかわレッドデータブック 2009〈動物編〉」からランクが変更された種

種名	旧ランク→新ランク	種名	旧ランク→新ランク
ヒメクロウミツバメ	I類 → 絶	ヘラサギ	外 → 準
ライチョウ	絶 → I類	バン	外 → 準
コウノトリ	外 → I類	カッコウ	外 → 準
トキ	絶 → I類	シロチドリ	Ⅱ類 → 準
タマシギ	Ⅱ類 → I類	ホウロクシギ	Ⅱ類 → 準
ミゾゴイ	I類 → Ⅱ類	ツルシギ	外 → 準
マナヅル	外 → Ⅱ類	タカブシギ	外 → 準
ナベヅル	外 → Ⅱ類	ツミ	外 → 準
クマタカ	I類 → Ⅱ類	オオタカ	Ⅱ類 → 準
オオジシギ	不足 → Ⅱ類	サシバ	Ⅱ類 → 準
オオコノハズク	不足 → Ⅱ類	アカショウビン	Ⅱ類 → 準
コノハズク	準 → Ⅱ類	ハヤブサ	Ⅱ類 → 準
ヤイロチョウ	外 → Ⅱ類	コヨシキリ	外 → 準
コシアカツバメ	準 → Ⅱ類	クロツグミ	外 → 準
ノジコ	準 → Ⅱ類	ホオアカ	外 → 準
クロガモ	外 → 準	アマツバメ	外 → 不足
ジュウイチ	外 → 不足	イワヒバリ	I類 → 地域
ヨシガモ	準 → 除外	チュウサギ	準 → 除外
ホオジロガモ	準 → 除外	カンムリカイツブリ	準 → 除外
ウミアイサ	準 → 除外	ウミスズメ	準 → 除外
カワアイサ	準 → 除外	サンショウクイ	準 → 除外
		サンコウチョウ	準 → 除外

4 県のレッドデータブックに選定されなかった国のレッドデータブック掲載種

石川県で記録がある国のレッドデータブック掲載種であって、県のレッドデータブックに選定されなかったものが下記のとおり 37 種ある。(表 3) これはコアホウドリやシロハラミズナギドリなどの迷鳥で(備考欄に迷鳥と表示) 県内への渡来が不定期なため選定対象種から除外したもの。ヒメウやアカアシシギなどのように国の指定が「繁殖(域)」を基準に指定しているもので、県内での繁殖がないため(備考欄に繁殖無と表示) 選定しなかったもの。オオヨシゴイやカラシラサギなどのように、ある程度の渡来は見られるものの定期的な渡来は見られず、時期、期間等が不安定なため(備考欄に迷鳥的と表示) 選定しなかったものがある。

これらの種類は現時点では選定基準に当てはまらず選定されなかったが、前回この表にあげられ迷鳥的と判断されていたコウノトリやナベヅル、マナヅルが今回は選定されたように、鳥類の生息状況は変化していくものなので、今後も動向に注意を払うべき種類である。

表 3 石川県で記録があるが県レッドデータブックからもれた国のレッドデータブック掲載種

種名	学名	国の区分	備考
コアホウドリ	<i>Diomedea immutabilis</i> (Rothschild)	EN	迷鳥
シロハラミズナギドリ	<i>Pterodroma hypoleuca</i> (Salvin)	DD	迷鳥
クロコシジロウミツバメ	<i>Oceanodroma castro</i> (Harcourt)	CR	迷鳥
クロウミツバメ	<i>Oceanodroma matsudairae</i> Kuroda	EN	迷鳥
ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i> Pallas	EN	繁殖無
チシマウガラス	<i>Phalacrocorax urile</i> (Gmelin)	CR	迷鳥的
オオヨシゴイ	<i>Ixobrychus eurhythmus</i> (Swinhoe)	EN	迷鳥的
カラシラサギ	<i>Egretta eulophotes</i> (Swinhoe)	NT	迷鳥的
クロトキ	<i>hreskiornis melanocephalus</i> (Latham)	DD	迷鳥
シジュウカラガン	<i>Branta canadensis</i> (Richardson)	CR	迷鳥的
ハクガン	<i>Anser caerulescens</i> (Linnaeus)	DD	迷鳥的
サカツラガン	<i>Anser cygnoides</i> (Linnaeus)	DD	迷鳥
アカツクシガモ	<i>Tadorna ferruginea</i> (Pallas)	DD	迷鳥的
ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i> (Linnaeus)	EN	迷鳥的
アカハジロ	<i>Aythya baeri</i> (Radde)	DD	迷鳥
コウライアイサ	<i>Mergus squamatus</i> Gould	DD	迷鳥
オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i> (Pallas)	VU	迷鳥的
ウズラ	<i>Coturnix japonica</i> Temminck & Schlegel	NT	野生種は迷鳥的
クロヅル	<i>Grus grus</i> (Linnaeus)	DD	迷鳥
タンチョウ	<i>Grus japonensis</i> (Linnaeus)	VU	迷鳥
チシマシギ	<i>Calidris ptilocnemis</i> (Coues)	DD	迷鳥
アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i> (Gunnerus)	VU	繁殖無
カラフトアオアシシギ	<i>Tringa guttifer</i> (Nordmann)	CR	迷鳥
コシヤクシギ	<i>Numenius minutus</i> Gould	EN	迷鳥
セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i> (Linnaeus)	VU	通過のみ
ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i> Forster	VU	迷鳥的
ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i> (Swinhoc)	VU	迷鳥的
オオアジサシ	<i>Thalasseus bergii</i> Lichtenstein	VU	迷鳥
ウミガラス	<i>Uria aalge</i> (Pontoppidan)	CR	迷鳥
ケイマフリ	<i>Cephus carbo</i> Pallas	VU	迷鳥・繁殖無
エトピリカ	<i>Lunda cirrhata</i> (Pallas)	CR	迷鳥的・繁殖無
カラスバト	<i>Columba janthina</i> Temminck	NT	迷鳥的
シマアオジ	<i>Emberiza aureola</i> Pallas	CR	繁殖無
チュウサギ	<i>Egretta eulophotes</i> (Wagler)	NT	県内では普通
サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i> (Raffles)	NT	県内では普通
カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i> (Linnaeus)	LP	県内では普通

5 謝辞

本章をまとめるにあたって、文章や写真提供、情報提供、選定のための意見交換などについて、多くの方々のご協力をいただいた。下記にご芳名を記して謝意を表するものである。

板垣博已、今森達也、岡望、木本祥太、櫻井佳明、笹原裕二、白川郁恵、高島雅一、田中秀雄、富沢直浩、中川富男、中西正太郎、中村正男、中本 總、中山博史、林宏発、平野賢次、広瀬弘一、増川勝二、山本芳夫、矢田新平 (竹田伸一)

ヒメクロウミツバメ

ミズナギドリ目 ウミツバメ科

Oceanodroma monorhis (Swinhoe)

石川県カテゴリー 絶 滅

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 確実な記録は1979年7月以来なく、観察記録も1982年5月以来途絶えている。以後何回も詳細な調査が行われているが、確認されていない。
- 形 態 全長約19cm。全身、黒褐色。
- 生 態 5月～6月にかけて離島の地上に穴を掘って繁殖する。雌雄交代で抱卵するが、番の一方は日中付近海上を飛行し、夜間に島に着陸し抱卵交代する。
- 国内分布 夏鳥として渡来し日本近海の離島で繁殖。国内の主な繁殖地は青森県下北半島、岩手県陸中海岸、東京都伊豆諸島、京都府沓島、島根県隠岐諸島、福岡県沖ノ島など。冬は南シナ海からインド洋に渡る。
- 県内分布 輪島市七ツ島大島。
- 生息・生育環境 日本近海の離島で繁殖。周辺海上に生息する。
- 危険要因 侵入したドブネズミによる捕食が考えられるが、詳細は不明。
- 参考文献 6, 12, 13



矢田新平

竹田伸一

ライチョウ

キジ目 キジ科

Lagopus muta (Montin)

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

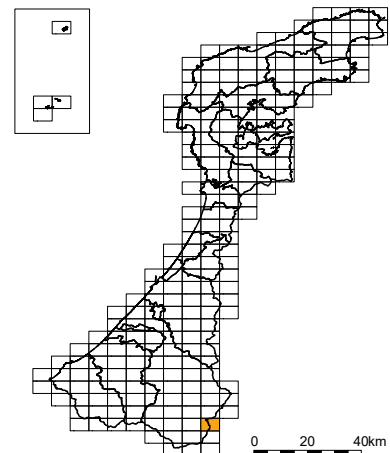
環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

- 選定理由 県内では絶滅したと考えられていたが、2008年に白山で再発見され2016年まで観察された。その後の再調査によって、過去に飛来していたことが推測され、今後も飛来する可能性が高いため。
- 形 態 全長約37cm。夏羽の雄は頭、頸、背にかけて黒褐色で、目の上に赤い肉冠ができる。雌は褐色。冬羽は雌雄とも全身白色。
- 生 態 高山のハイマツ帯に繁殖する。主に植物の若芽、果実、種子などを食べるが、昆虫も食べる。
- 国内分布 本州中部の高山帯。北アルプス、乗鞍岳、御岳山、頸城山塊、南アルプスなど。
- 県内分布 白山の高山帯。
- 生息・生育環境 高山のハイマツ帯。
- 危険要因 観光化や温暖化による高山帯の環境悪化。すなわち病気、天敵などの増加、シカ、イノシシなどによる高山植生の破壊。
- 特記事項 1930年代に絶滅したとされていたが、上馬ら(2011)の記録の再調査によってその後も他の山岳から時々飛来し、生息していたことが推測された。国内希少野生動物種、国指定特別天然記念物。
- 参考文献 1, 18



笹原裕二

竹田伸一



県内の分布

コクガン

カモ目 カモ科

Branta bernicla (Linnaeus)

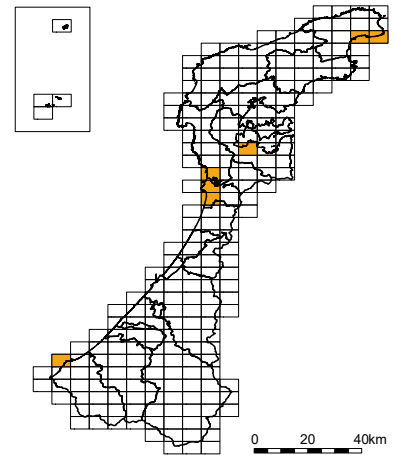
石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 個体数が少なく、越冬地である内湾、浅海域も限られている。
- 形態 全長約61cm。雌雄同色。頭部から腹部は黒く、背、翼は黒褐色。頸の上部には頸輪状の白色斑がある。下腹から下尾筒と上尾筒は白く、脇は黒褐色と白色の縞模様がある。幼鳥は上面の羽縁に淡色斑があり、頸の白色斑がないこともある。
- 生態 他のガン類と異なり、海岸で岩礁に付着するアマモなどの海藻類を好んで食べる。越冬期は群れで行動することが多く、県内でも数羽程度の小群で観察されることが多い。
- 国内分布 冬鳥として主に北海道から東北の沿岸に渡来する。
- 県内分布 過去には毎年の様に七尾西湾で越冬していたが、最近では記録が減っている。近年は、県内各地の岩礁海岸や港湾等へ少数が散発的に渡来している。海岸部以外では、片野鴨池や犀川下流部などでも記録がある。
- 生息・生育環境 波静かな内湾など、餌となる海藻類を採ることができる岩礁地帯等。
- 危険要因 越冬できるような環境が局地的であり、漁業等の人間活動の影響を受けやすい。
- 特記事項 国指定天然記念物



中村正男



県内の分布

富沢直浩

コウノトリ

コウノトリ目 コウノトリ科

Ciconia boyciana Swinhoe

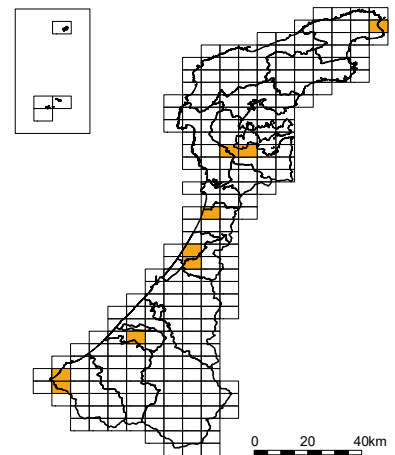
石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類

- 選定理由 かつては国内の繁殖個体群があったが、1970年代に絶滅。その後は迷鳥として大陸の個体が飛来するだけだったが、2005年から兵庫県で飼育個体の放鳥が行われており、それに伴い県内での観察記録は増加している。しかし依然として個体数は非常に少なく、生息環境の保全が必要である。
- 形態 全長約112cm。雌雄同色。体は白色で、翼のうち雨覆と風切は黒色。虹彩は淡色で、目の周囲は赤色。嘴は黒く長く、先端は尖る。足は赤く長い。
- 生態 湿地、水田などに生息。魚や甲殻類、軟体動物などを食べる。鉄塔や樹木などに営巣する。
- 国内分布 兵庫で放鳥された飼育個体が野外で繁殖し、個体数を増加させており、全国各地での観察例が増えている。
- 県内分布 大聖寺川下流、柴山瀧、河北瀧、邑知瀧、七尾西湾などにしばしば飛来する。大陸から飛来したと思われる個体が観察されることもある。
- 生息・生育環境 餌となる生物が豊富な湿地、水田など。
- 危険要因 開発による生息環境の消失や、農薬等による餌資源の汚染や減少。
- 特記事項 ワシントン条約附属書Ⅰ、国内希少野生動植物種、国指定特別天然記念物。



中村正男



県内の分布

富沢直浩

鳥類

サンカノゴイ

ペリカン目 サギ科

Botaurus stellaris (Linnaeus)

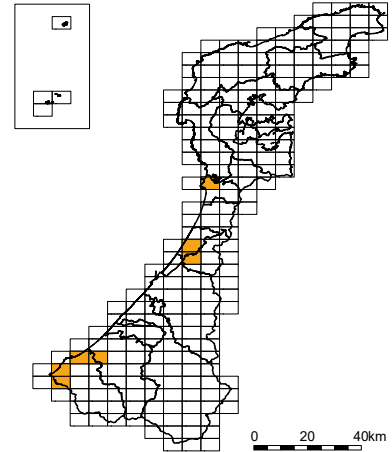
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

- 選定理由 個体数が少なく、越冬地となるヨシ原が減少している。
- 形態 全長約70cm。雌雄同色。全身が淡黄褐色で、上面は黒褐色の斑が多くまだら模様。下面は上面よりも淡色で暗褐色の縦斑がある。頭頂および頸線は暗褐色。嘴と足は淡緑色。
- 生態 低地の水辺のヨシ原など、湿性草原に生息する。全身のまだら模様は枯れたヨシによく溶け込み、日中は主にヨシ原の中でじっとしていることが多く、見つけることは難しい。越冬期は基本的に単独で生活している。主に魚類や両生類、昆虫を食べるが、小鳥や小動物、甲殻類なども食べる。
- 国内分布 北海道では夏鳥。本州北中部では留鳥または冬鳥、本州南西部では冬鳥。
- 県内分布 主に冬鳥として渡来し、近年は邑知潟、河北潟、片野鴨池、大聖寺川下流域などで記録されている。
- 生息・生育環境 低地のヨシ原など、植生の密な湿性草原。
- 危険要因 生息地となるようなヨシ原の減少。生息地への釣り人等の侵入。



板垣博巳



富沢直浩

県内の分布

ヨシゴイ

ペリカン目 サギ科

Ixobrychus sinensis (Gmelin)

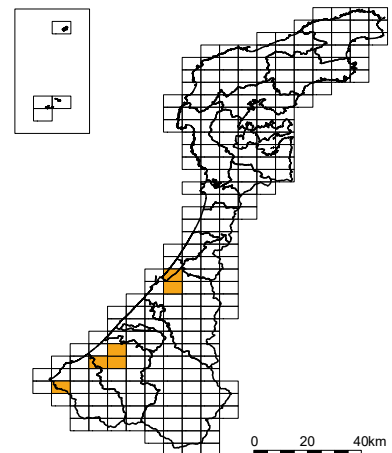
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧種

- 選定理由 個体数の減少が著しく、近年の県内での繁殖個体数も少数と考えられる。
- 形態 全長37cm。全身淡褐色の小型のサギ。雄成鳥は頭中央線が黒色で、前頸には淡黄褐色の不明瞭な縦斑がある。翼上面には淡褐色の雨覆と黒色の風切のコントラストが著しい。雌成鳥は頭中央の黒色の範囲が狭く、背の羽縁が淡色の縦斑をなす。前頸には淡黄褐色の縦斑がある。雌雄とも虹彩は黄色。嘴は黄色で、嘴峰は黒色。足は黄緑色。
- 生態 主にヨシ原に生息し、魚やカエル、昆虫、クモ、エビなどを捕食する。外敵が近づくと、これに正対し、嘴を天に向け、頸を上へ伸ばしてヨシに擬態する。5~6月頃、ヨシ原やメダケなどの藪で営巣する。
- 国内分布 主に夏鳥として全国に渡来する。北海道では少なく、西南日本では越冬例もある。
- 県内分布 主に夏鳥として渡来し、河北潟、柴山潟などのヨシ原で繁殖している。
- 生息・生育環境 外敵が近づきにくい、広いヨシ原。
- 危険要因 生息地となるヨシ原の減少や生息地への釣り人などの人の入り込み。ただし、環境が悪化していない場所においても個体数が減少しており、国外の越冬地の環境悪化や乱獲などの影響が懸念される。



中西正太郎



富沢直浩

県内の分布

トキ

ペリカン目 トキ科

Nipponia nippon (Temminck)

石川県カテゴリー 絶滅危惧 I 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類

■**選定理由** かつては県内でも繁殖していたが、1970年に穴水町で最後の1羽が人工繁殖のために捕獲され、県内では絶滅となった。新潟県の佐渡島では、中国から借り受けた個体で人工繁殖が行われ、野生個体群復活のための放鳥が2008年から行われている。県内においても、佐渡で放鳥された個体が飛来し、長期間滞在しており、今後も飛来が予想されることから。

■**形態** 全長約77cm。雌雄同色。全身白っぽいが、翼や尾羽は淡いピンク色。顔の裸出部と足は赤い。嘴は湾曲し、黒く長く、先端は赤い。後頭部は冠羽状となる。繁殖期には分泌される色素によって、頭から頸、背にかけて黒っぽくなる。

■**生態** 昆虫や魚などの小動物を食べる。樹上で営巣し、繁殖期以外は群れで行動することが多い。

■**国内分布** 明治以前は全国に広く分布していたが、明治期に激減し、1981年に佐渡に残った最後の5羽が人工繁殖のために捕獲され、野生絶滅となった。2008年から野外放鳥が行われており、これにより佐渡以外でも観察例が増えている。

■**県内分布** 1950年代まで輪島市市街や穴水町七海付近の山林でごく少数が繁殖していたが、徐々に数を減らし、1961年が最後の繁殖成功となった。季節的な移動が見られ、初夏から夏には眉丈山付近に移動し、秋から春にかけては輪島市、穴水町へ戻る群れが観察されていた。近年は佐渡での放鳥個体が散発的に能登を中心に県内各地で記録されている。

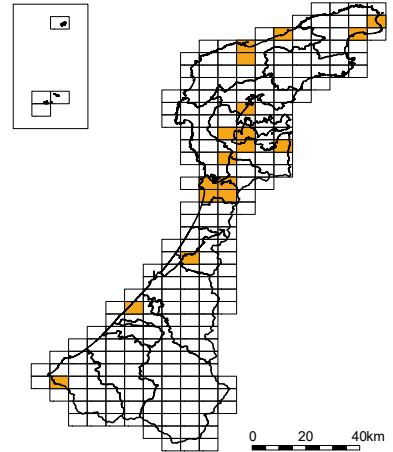
■**生息・生育環境** 周囲に餌場となる湿地や水田をもつ丘陵地。

■**危険要因** 開発による生息環境の消失や、農業等による餌資源の汚染や減少。

■**特記事項** 国際保護鳥、ワシントン条約附属書 I、国内希少野生動物種、国指定天然記念物、輪島市の鳥。



広瀬弘一



富沢直浩

県内の分布

クワツラヘラサギ

ペリカン目 トキ科

Platalea minor Temminck & Schlegel

石川県カテゴリー 絶滅危惧 I 類

環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B 類

■**選定理由** 極東地域にのみ生息しており、世界的に個体数が少ない。生息環境の悪化が懸念されている。

■**形態** 全長約80cm、体色は白い。ヘラサギによく似るが、嘴から目先までが黒色。繁殖期の成鳥は頭部に冠羽が現れ、胸部は橙色になる。

■**生態** 湖沼、湿地、水田などに生息。しゃもじ状の嘴を半開きにして、頭を横に振りながら餌を探す。魚や甲殻類、軟体動物などを食べる。

■**国内分布** 主に西南日本で少数が越冬する。

■**県内分布** 七尾西湾、河北潟、柴山潟などにしばしば飛来する。長期間滞在することも少なくない。

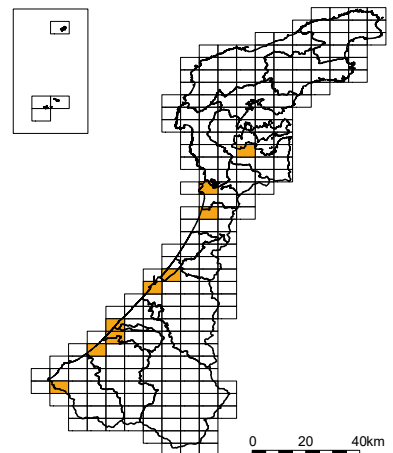
■**生息・生育環境** 湖沼や湿地、水田などの餌となる生物が豊富な水辺。

■**危険要因** 生息に適した干潟などの環境の開発等による消失。水田の乾田化や排水路の整備による餌の減少。

■**特記事項** 国内希少野生動物種。



中西正太郎



富沢直浩

県内の分布

ヒクイナ

ツル目 クイナ科

Porzana fusca (Linnaeus)

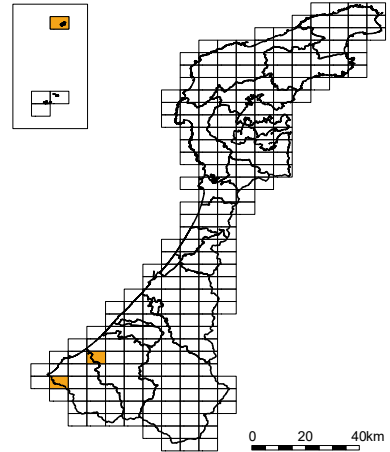
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧

- 選定理由 近年、個体数が著しく減少している。
- 形態 中型のクイナで、全長22cm。頭頂から体上面は暗緑褐色で、頭部から胸、上腹は赤茶色、下腹から下尾筒は白黒の縞模様。嘴は黒っぽく、足は赤色。虹彩は赤色。
- 生態 平地の湿地や水田、河川敷などに生息し、イネや草藪の中で営巣する。餌は小魚や水生昆虫、種子など、主に夜間に「コッコッコッ…」と、次第にテンポの早くなる連続した声で鳴く。「キュルルル…」とカイツブリのような声で鳴くこともある。
- 国内分布 亜種ヒクイナ*P. f. erythrotrax*は北海道から九州で繁殖しており、西南日本では越冬するものもいる。亜種リュウキュウヒクイナ*P. f. phaeopyga*は南西諸島に生息し、留鳥。
- 県内分布 夏鳥として渡来し、大聖寺川下流、片野鴨池、柴山潟、手取川、犀川下流、河北潟、邑知潟、七尾西湾などで繁殖例や観察例があるが、近年は観察例が少ない。
- 生息・生育環境 餌が豊富な湿地や水田、河川敷など。
- 危険要因 水田環境の変化や湿地の減少などにより、繁殖に適した環境が減少している。
- 参考文献 3



矢田新平



富沢直浩

県内の分布

ヘラシギ

チドリ目 シギ科

Eurynorhynchus pygmeus (Linnaeus)

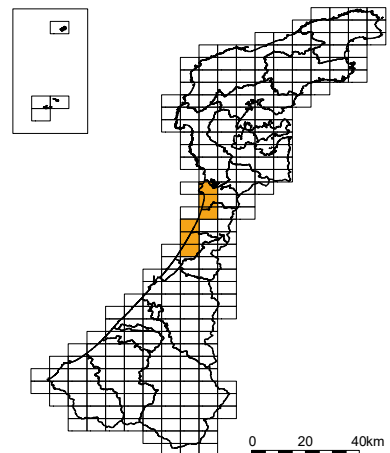
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類

- 選定理由 世界的に数が少なく、個体数はわずか数百羽と推測されており、絶滅の危機に瀕している。県内でも、秋の渡りの時期に散発的に渡来するのみとなっている。
- 形態 全長14.5cm。雌雄同色。冬羽では上面は灰色、下面は白色。夏羽では頭部から胸までが赤褐色になる。嘴の先端がへら状になっているのが特徴。
- 生態 主に秋、砂浜海岸や干潟に渡来し、汀線近くで採餌する。トウネンの群れに混じって行動することが多い。
- 国内分布 日本では数少ない旅鳥。主に秋に砂浜海岸や干潟に渡来する。
- 県内分布 主に秋に、金沢から志賀町までの砂浜海岸で散発的に記録がある。トウネンの群れの中で発見されることが多い。以前はごく少数ではあるが、毎年のように渡来が確認されていたが、近年では数年に1度程度しか観察されていない。
- 生息・生育環境 広い砂浜海岸や砂質の干潟。
- 危険要因 侵食による砂浜海岸の消滅、開発による干潟の消失などによる生息地の減少。
- 特記事項 国内希少野生動物種。
- 参考文献 3



高畠雅一



富沢直浩

県内の分布

タマシギ

チドリ目 タマシギ科

Rostratula benghalensis (Linnaeus)

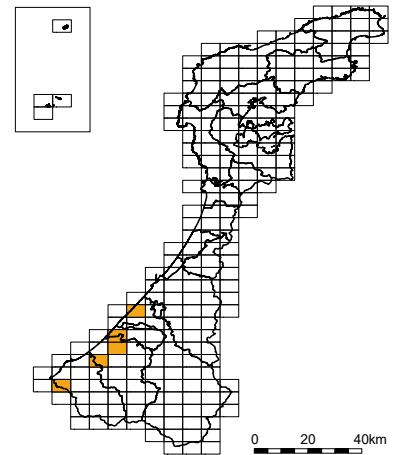
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- **選定理由** 湿地の減少や水田の乾田化などにより繁殖地となる環境が減少し、個体数が著しく減少している。
- **形態** 全長24cm。雌の方が雄よりも目立つ色合いをしていて、体も大きい。雄は頭から背にかけての上面が全体的に褐色で、肩から背には黄褐色の線があり、肩から胸には1本の太い白線がある。翼には黄褐色の斑があり、目の周囲には勾玉状の黄褐色の斑がある。頭中央線も黄褐色。雌は、目の周囲に勾玉状の白色斑があり、顔から胸が赤褐色、背から側面は緑がかったブロンズ色で、肩から胸には1本の太い白線がある。幼鳥は雄に似る。
- **生態** 水田や休耕田、湿地などに生息する。一妻多夫で、イネの株間や草陰などの地上に営巣し、雄が抱卵や育雛を行う。繁殖期の夜間には、雌が「コー、コー、コー・・・」とよくとおる声で鳴く。餌は昆虫、ミミズなど。
- **国内分布** 主に本州中部以南で繁殖し、留鳥の地域が多い。
- **県内分布** 主に夏鳥として渡来し、大聖寺川下流、柴山潟、河北潟、七尾西湾などで繁殖例や観察例がある。河北潟では越冬例もある。
- **生息・生育環境** 水生昆虫や小動物などの餌が豊富な湿地や水田で繁殖する。
- **危険要因** 開発や水田の乾田化などにより、生息に適した水田や湿地が減少している。
- **参考文献** 3



中西正太郎



富沢直浩

県内の分布

コアジサシ

チドリ目 カモメ科

Sterna albifrons Pallas

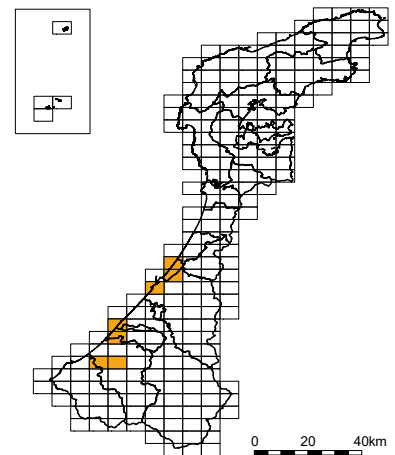
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- **選定理由** 繁殖地が不安定で、県内での安定した繁殖地は1ヵ所のみである。
- **形態** 全長約28cm。雌雄同色。頭部が黒く、背など上面は青灰色、尾と下面は白色、嘴は黄色、足はオレンジ色。
- **生態** 夏鳥として渡来し、河川敷や海岸の砂礫地に集団で繁殖する。河川、湖沼、内湾で小魚などを捕る
- **国内分布** 本州以南の海岸、河川、湖沼に夏鳥として渡来する。
- **県内分布** 安定的な繁殖地は手取川下流部のみである。春秋の渡りの時期には県内の河川、湖沼、内湾でも観察できる。
- **生息・生育環境** 広い砂浜海岸や植生のない河川敷などの砂礫地。
- **危険要因** 人為的な繁殖地の攪乱、カラスなど天敵によるひなの捕食。豪雨による繁殖地の水没、巣卵の流出やひなの死亡。
- **特記事項** 石川県指定希少野生動物種。
- **参考文献** 2, 3



高島雅一



竹田伸一

県内の分布

カンムリウミスズメ

チドリ目 ウミスズメ科

Synthliboraphus wumizusume (Temminck)

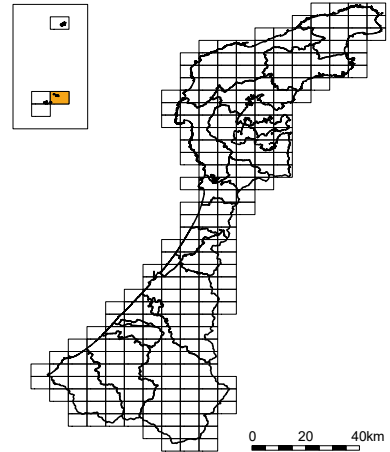
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 県内での繁殖地は七ツ島に限られており、また同地は本種の国内での繁殖北限でもある。
- 形態 全長約24cm。ウズラ大の小型の海鳥で頭部には小さな冠羽がある。頭部と体上面は黒色、頸、胸、下面は白色。
- 生態 潜水して小魚や甲殻類を捕る。3～4月に島に飛来、上陸して産卵し、約1ヶ月の抱卵ののち、親鳥は孵化した雛を連れて海に出る。育雛は周辺の海上で行われる。
- 国内分布 九州沿岸、四国の太平洋沿岸、伊半島南部、伊豆諸島などで繁殖、生息が確認されている。
- 県内分布 七ツ島、主に荒三子島で繁殖し、周辺の海上で見られる。
- 生息・生育環境 人や天敵となる小動物が近づけない離島に繁殖する。
- 危険要因 ドブネズミ等の侵入動物による食害。大型船舶などからの油流出。
- 特記事項 国指定天然記念物。かつては七ツ島大島、御厨島でも繁殖が確認されていたが、現在は見られない。
- 参考文献 3, 6, 12, 13



林 宏初



竹田伸一

県内の分布

チュウヒ

タカ目 タカ科

Circus spilonotus Kaup

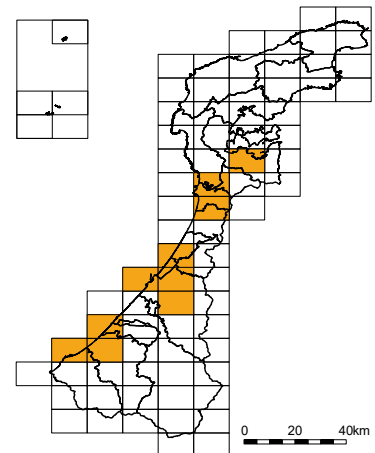
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

- 選定理由 海岸、河川、湖沼などの周辺にあるヨシ原を中心とした湿原生態系の頂点に位置するタカで、ヨシ原等湿地の開発や公園化等により、生息・営巣環境が悪化しており、繁殖個体数が減少している。
- 形態 全長約55cm。翼開長約1.3m。雄よりも雌が大きい。トビよりもやや小さく細身のタカで、翼と尾と足が長い。色彩パターンには変化が多い。雄は頭部が灰色で淡褐色の縦斑があるものと、黒色縦斑が密にあり一見黒く見えるものがある。雌は全体に褐色をしている。
- 国内分布 主に本州中部以北の湖沼や海岸、干拓地のヨシ原等で繁殖している。冬期は大陸から冬鳥として渡来する個体が多数あり、全国のヨシ原等で観察される。
- 県内分布 柴山潟、河北潟、邑知潟、七尾西湾等で少数が繁殖している。越冬期には他地域から冬鳥として渡来するものがあり、県内各地の海岸や湖沼のヨシ原で姿が見られる。
- 生態 巣は、ヨシ原や草原の地上にヨシの枯れ茎を積み上げて作る。産卵は4月中旬から5月に行われ、一腹卵数は普通5～6個で、7月頃巣立ちする。広いヨシ原の上をゆったりとした羽ばたきと滑空を交互にして低く飛び、獲物を見つけたらすばやく下りて捕らえる。餌はネズミ類や鳥類などである。
- 生息・生育環境 繁殖するためには、営巣場所および餌場として広いヨシ原が必要である。また、巣を地上で作るので外敵に襲われやすく、人間活動にも影響を受けやすい。
- 危険要因 湖沼などの広いヨシ原に生息するため、湖沼の公園化やヨシ原の開発、護岸工事等。
- 特記事項 国内希少野生動物種、石川県指定希少野生動物種。内灘町の鳥。
- 参考文献 5



中川富男



木本祥太

県内の繁殖分布

イヌワシ

タカ目 タカ科

Aquila chrysaetos (Linnaeus)

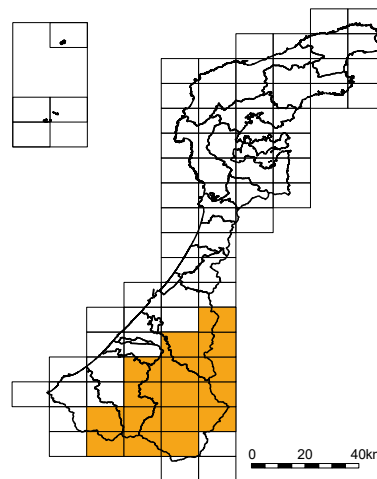
石川県カテゴリ 絶滅危惧 I 類

環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B 類

- **選定理由** 山地帯から亜高山帯までの山地生態系の頂点に位置する大型のワシで、もともと個体数が少ない上に、人間活動により生息地が狭められつつある。また、繁殖成功率が著しく低下している。
- **形態** 全長約85cm。翼開長約2m。雄よりも雌が大きい。全体に暗褐色で後頭部は金褐色を帯びている。幼鳥は、翼と尾羽の基部に明瞭な白斑がある。嘴は黒色で基部は黄色い。足指は黄色である。
- **国内分布** 北海道、本州、四国、九州の低山から高山までに周年生息するが、本州以外では少ない。国内に約500羽が生息すると推定されているが、繁殖成功率は近年、全国的に著しく低下している。
- **県内分布** 1998～2000年に行われた調査によると、白山を中心とした加賀地方の山地に約15番、30～40羽の生息が推定されているが、広範囲の詳細な調査は近年実施されておらず、最近10年間において繁殖が確認されたのは白山山系に生息する4番のみとする指摘もある。
- **生態** 深い谷にある切り立った岩壁の岩棚に営巣する。繁殖活動は早く、晩秋から初冬に始まる。1～2月に産卵する。一腹卵数は普通2個だが、2羽巣立つことは稀である。抱卵日数は42～45日で3月に孵化し、孵化から70～80日後の5～6月に巣立ちする。行動圏は約30～100km²といわれる。ヤマドリ、ノウサギ、ヘビ類等を主食にする。
- **生息・生育環境** 豊富な餌のある自然環境で、狩りのしやすい開けた場所（草地等）があること。外敵の近づけない急峻な場所で巣を造れる適当な岩場や大木があること。上昇気流が起こるなど飛行に適する場所があること。山間部での人間活動による悪影響が少ないこと。県内では原生的な落葉広葉樹林と、森林内に点在する雪崩跡地等の草地在、採餌環境・生息環境として重要である。
- **危険要因** 営巣地の近くで人間活動が行われると、営巣放棄につながりやすい。また、手入れが不十分な人工林は、餌動物の減少、狩場の減少につながり、山地に人工林が増えたことも繁殖成功率低下の原因となっている可能性がある。加えて、密猟の危機にさらされている。
- **特記事項** 国内希少野生動物種、国指定天然記念物。石川県の県鳥。
- **参考文献** 8, 14



富沢直浩



木本祥太

県内の繁殖分布

チゴモズ

スズメ目 モズ科

Lanius tigrinus Drapiez

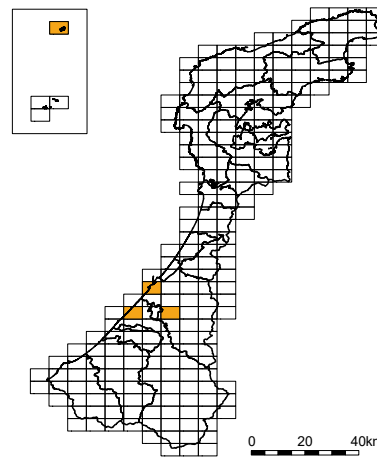
石川県カテゴリ 絶滅危惧 I 類

環境省カテゴリ 絶滅危惧 I A 類

- **選定理由** 近年全国的に減少が著しい。県内での生息数も著しく減少しており、ほとんど見られない。また石川県はおそらく日本での繁殖分布の西限にあたる。
- **形態** 全長約19cm。頭部は青灰色。背、翼など上面は赤褐色。黒い過眼線があり、下面は白色。
- **国内分布** 夏鳥として渡来し、本州の中部以北に極めて局地的に分布する。平地から山地帯にかけての広葉樹林、アカマツ林、クロマツ林、雑木林、果樹園などに繁殖する。
- **県内分布** 海岸クロマツ林等で少数が繁殖しているが、近年減少が著しく、ほとんど見られない。
- **生態** 主食は昆虫。繁殖期は6～7月。抱卵期間、育雛期間ともに14～15日。
- **生息・生育環境** 餌の豊富なまばらな広葉樹林、マツ林。アカモズよりは密生した林を好む。
- **危険要因** 海岸林の伐採、開発、松くい虫の防除による薬剤散布。個体数の著しい減少の原因としては、越冬地や中継地での環境悪化、乱獲などが懸念されている。



中本 總



木本祥太

県内の分布

鳥類

アカモズ

スズメ目 モズ科

Lanius cristatus Linnaeus

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

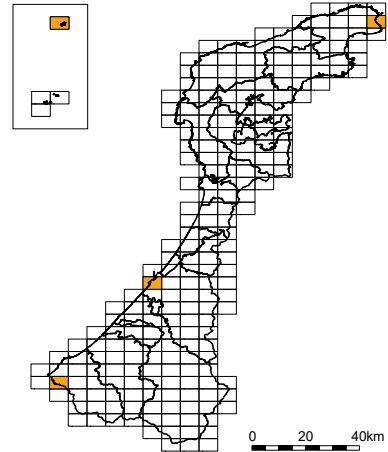
環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

- 選定理由 近年全国的に減少が著しく、県内ではほとんど見られなくなった。
- 形態 全長20cm。頭部から背、翼、尾などは赤褐色。下面は白。黒い過眼線と白い眉斑を持つ。
- 国内分布 夏鳥として九州中部以北の平地から低山の林、灌木のある草原に渡来する。本州では高原、北海道では低地の草原に多い。
- 県内分布 加賀地方ではクロマツなどの海岸林、能登地方では低山の疎林に分布していたが、近年急激に数が減少し、現在、確実な繁殖地の情報は無い。
- 生態 主食は昆虫。繁殖期は5～7月で、抱卵期間、育雛期間はともに14～15日。昆虫、カエル、トカゲ等の小動物を捕食する。
- 生息・生育環境 疎らな林、灌木のある草原。
- 危険要因 海岸林の伐採など。しかしそれほど環境が悪化していない場所でも消失しており、越冬地や中継地での環境悪化、乱獲などが懸念されている。

木本祥太



広瀬弘一



県内の分布

ヒシクイ

カモ目 カモ科

Anser fabalis (Latham)

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

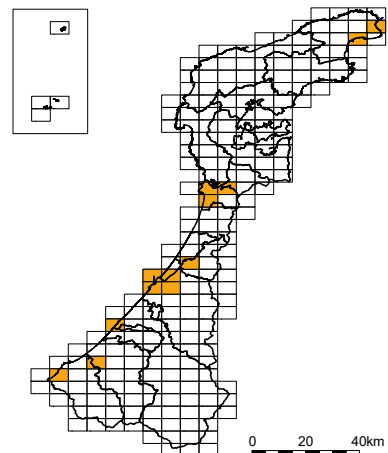
環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 全国的にも越冬地は限られており、石川県は有数の越冬地であること。また水田の減少および乾田化で、生息環境が悪化している。警戒心が強く、人との接触を嫌う。
- 形態 全長約85cm。雌雄同色の大型の水鳥。全身黒褐色で、嘴の先端が黄色。
- 生態 河川湖沼、水田などの湿地で採食する。
- 国内分布 冬鳥として渡来。北海道を経て東北、北陸、滋賀県辺りまで生息する。
- 県内分布 県内の湖沼とその周辺の水田。柴山潟、河北潟、邑知潟の周辺など。
- 生息・生育環境 広い水田や湿地、湖沼など。
- 危険要因 水田の減少や乾田化による採食場の減少。
- 特記事項 国指定天然記念物。石川県に生息するのは主に垂種オオヒシクイ *A. f. middenorffii* である。

竹田伸一



櫻井佳明



県内の分布

マガン

カモ目 カモ科

Anser albifrons (Scopoli)

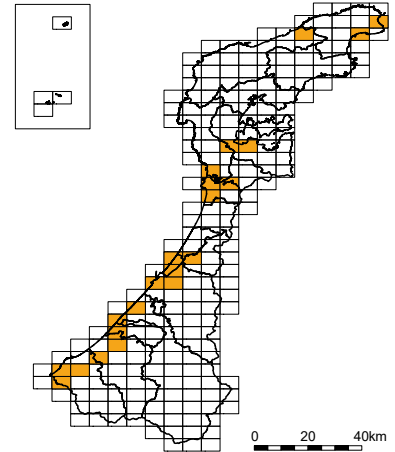
石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリ 準絶滅危惧

- 選定理由 全国的にも越冬地は限られており、石川県は有数の越冬地であること。また水田の減少および乾田化で、生息環境が悪化している。
- 形態 全長65～86cm。雌雄同色。全身灰褐色で下面は淡色。成鳥は嘴がオレンジ色またはピンクで嘴基部周辺が白い。腹に不規則な黒い横斑があり尾に白帯がある。足はオレンジ色。秋の幼鳥は嘴が濁黄色で、先端などが黒く、額の白と腹の黒斑を欠く。
- 生態 湖沼または干潟と後背地に採食地となる水田などの広い耕地を持つ地域に生息する。イネの落穂や二番穂、イネ科の水田雑草などを食べる。警戒心が非常に強い。
- 国内分布 冬鳥として渡来し、東北地方及び日本海側沿岸部で越冬するが局地的である。宮城県伊豆沼、内沼に多く約20万羽が越冬している。北海道は渡りの中継地であり、秋春の渡りの時期には大群が見られる。
- 県内分布 片野鴨池に約2,000羽が越冬しており西日本最大の渡来地であり、採食のために福井県坂井平野との間を行き来している。その他、群れは小さいが珠洲市、邑知瀧、志賀町、河北瀧などに越冬群が見られる。
- 生息・生育環境 人がほとんど入らない広い田畑があり、落ち着いて寝られる埒(池や瀧)があること。
- 危険要因 水田の減少および乾田化により、生息地と食物が不足。春先に転作作物の大麦を食害するため農家との軋轢がある。
- 特記事項 国指定天然記念物



櫻井佳明



山本芳夫

県内の分布

カリガネ

カモ目 カモ科

Anser erythropus (Linnaeus)

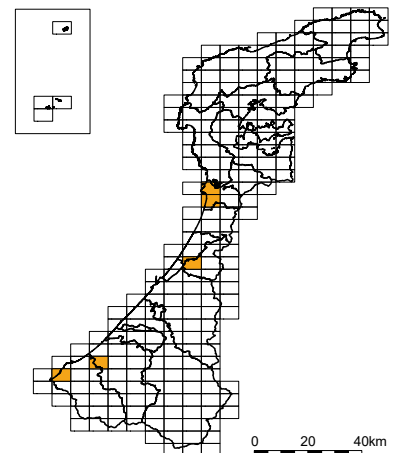
石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類

- 選定理由 全国的にも越冬地は限られており、中でも石川県は有数の越冬地であること。また水田の減少および乾田化で、生息環境が悪化している。
- 形態 全長53～66cm。日本のガン類では最も小さい。雌雄同色。全体的に灰褐色。嘴はオレンジ色またはピンクで成鳥は嘴基部周辺が白い。腹には不規則な黒い横斑があり尾に白帯がある。マガンに酷似するが嘴が短く、目の周囲はリング状に黄色。足はオレンジ色。
- 生態 淡水湖沼または干潟とその後背地に採食地となる水田などの広い耕地を持つ地域に生息する。二番穂やイネ科の水田雑草などを食べる。警戒心が非常に強い。
- 国内分布 希な冬鳥として、北日本に局地的に渡来する。マガンと行動を共にすることが多く、群の中から本種を見分けるのは難しく、記録は少ない。宮城県伊豆沼などでごく少数観察されている。
- 県内分布 希な冬鳥として、片野鴨池等に渡来するマガンの群れに混じって観察されることがある。マガンと行動を共にして採食のために福井県坂井平野との間を行き来している。
- 生息・生育環境 人がほとんど入らない広い田畑があり、落ち着いて寝られる埒(池や瀧)があること。
- 危険要因 水田の減少および乾田化により、生息地と食物が不足。春先に転作作物の大麦を食害するため農家との軋轢がある。カメラマンに追いかけられ、ゆっくり採食できないこともある。



櫻井佳明



山本芳夫

県内の分布

トモエガモ

カモ目 カモ科

Anas formosa Georgi

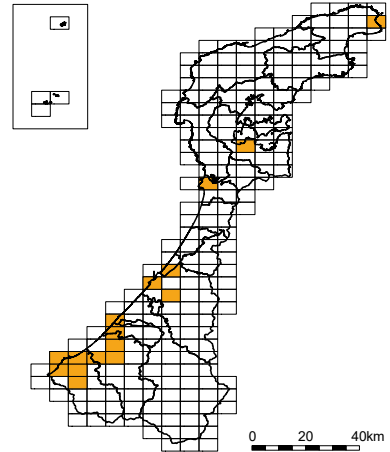
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 極東にのみ生息し世界的に数が少ない希少鳥である。石川県は日本でも有数の渡来地であること。
- 形態 全長39～43cm。雄の冬羽は頭部が淡黄色と緑色の巴模様をしている。胸は黄褐色に黒斑があり、側胸に白線がある。肩羽の数枚が衰羽状になっている。雌は全体が褐色で、下嘴の付け根部に淡い円形の白斑がある。雄の非繁殖羽は雌に似る。
- 生態 群れで行動することが多く、1,000羽を超える群れが見られることもある。夕方の塘立ちにボール状に密集して飛んで行く。主に植物食でイネの落粉や、草の種子を好み、水生小動物も食べる。臆病な性質で人を近づかせない。
- 国内分布 冬鳥として渡来するが、局地的で数は少ない。主に関東以西で越冬する。太平洋側より日本海側に多く見られる。以前は大群が渡来したらしいが近年は見られない。
- 県内分布 片野鴨池には定期的に2,000羽前後が渡来する。かつて河北潟には大群が渡来したが近年は減少している。
- 生息・生育環境 餌場となる水田に近く、人間などが近づきにくい山間の湖沼、広い水面を持つ湖沼など。
- 危険要因 臆病な性質なので、人間活動の影響を受けやすい。片野鴨池にいた群れがヘリコプターに驚いて琵琶湖まで避難したことが確認されている。また、雌はコガモとの区別が難しく、誤って狩猟される可能性がある。採食地である谷内田の減少も危惧される。



櫻井佳明



山本芳夫

県内の分布

ミゾゴイ

ペリカン目 サギ科

Gorsachius goisagi (Temminck)

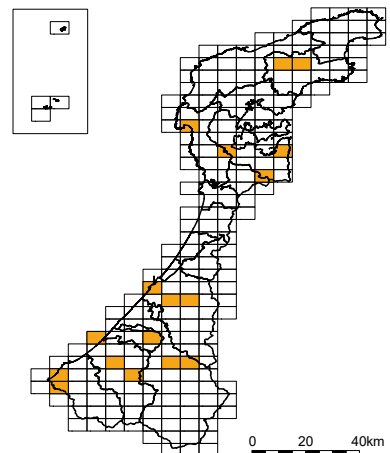
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 全国的に個体数の減少と生息環境の破壊が懸念されており、繁殖個体数も少ないため。
- 形態 全長約50cm。雌雄同色。全体に栗色で、頭頂は濃い。体の下面は色が薄く、中央には喉から腹部に続く濃い縦線がある。
- 生態 夏鳥として低山帯の森林に渡来し、繁殖する。潜行性が強く、長く夜行性と考えられてきたが、昼間の活動もよく観察される。山間の湿地でミミズ、サワガニ、カエルなどの小動物を食べる。
- 国内分布 本州、四国、九州、伊豆諸島などの森林で繁殖し、冬はフィリピンなど東南アジアに渡る。一部は南西諸島などに残るものもあるという。
- 県内分布 10年前前までは情報が少なく分布は局地的とされていたが、近年、奥能登、能登、金沢、南加賀、白山麓など、県内に広く分布していることが分かってきた。一方、金沢近郊では個体数の減少が指摘され、今後も注意が必要である。
- 生息・生育環境 低山の森林に囲まれ、エサの豊富な中山間地の谷津田や湿地のある谷。
- 危険要因 丘陵～低山の開発や伐採、また餌場となる中山間地の水田荒廃など、人間活動に脅かされる。
- 参考文献 11



広瀬弘一



竹田伸一

県内の分布

マナヅル

ツル目 ツル科

Grus vipio Pallas

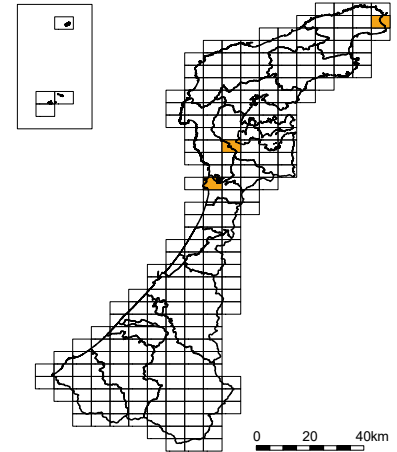
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 世界的に分布が限られ、本県への渡来も不定期であり、ごく少ない。
- 形態 全長125cmで、タンチョウより小さい。雌雄同色。目のまわりの裸出部は赤い。翼及び上面は薄い灰色をしており、頸から腹にかけての下面は濃い灰色。頭頂から頸筋は白い。
- 国内分布 冬鳥として、主に鹿児島県出水地方に渡来する。
- 県内分布 稀な冬鳥として、邑知潟、河北潟、柴山潟等の水田地帯に渡来する。
- 生態 大陸の広大な湿原で繁殖し、水田地帯、河川、湖沼等の水辺で越冬する。水の張られた水田を藪として利用する。種子や草の根、小動物などを食べる。
- 生息・生育環境 ねぐらとなる水を張った水田や、餌場となる小動物が豊富な水田。
- 危険要因 農地転用等による水田の減少、農業使用による水田の動物の減少、乾田化。
- 特記事項 ワシントン条約附属書Ⅰ
- 参考文献 17



板垣博巳



木本祥太

県内の分布

ナベヅル

ツル目 ツル科

Grus monacha Temminck

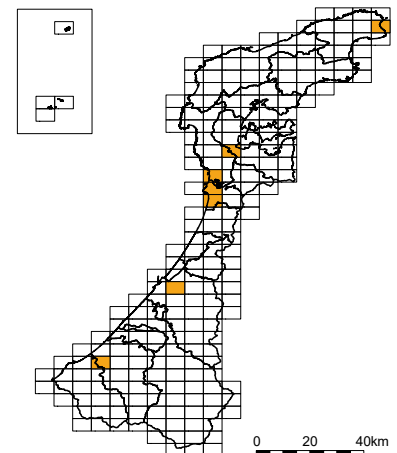
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 世界的に分布が限られ、本県への渡来も不定期であり、ごく少ない。
- 形態 全長100cmで、マナヅルより小さい。雌雄同色。前頭頂に肌の露出した部分があり、目の上の額部分は赤いが他の露出部分は黒い。顔から頸にかけては白色で、頸の前部から全身にかけては灰黒色。
- 国内分布 冬鳥として、主に鹿児島県出水地方に渡来する。
- 県内分布 稀な冬鳥として、邑知潟、河北潟、柴山潟等の水田地帯に渡来する。
- 生態 ロシア東南部の森林に囲まれた湿原で繁殖し、水田地帯、河川、湖沼等の水辺で越冬する。水の張られた水田を藪として利用する。種子や草の根、小動物などを食べる。
- 生息・生育環境 藪となる水を張った水田や、餌場となる小動物が豊富な水田。
- 危険要因 農地転用等による水田の減少、農業使用による水田の動物の減少、乾田化。
- 特記事項 ワシントン条約附属書Ⅰ
- 参考文献 19



中西正太郎



木本祥太

県内の分布

ヨタカ

ヨタカ目 ヨタカ科

Caprimulgus indicus Latham

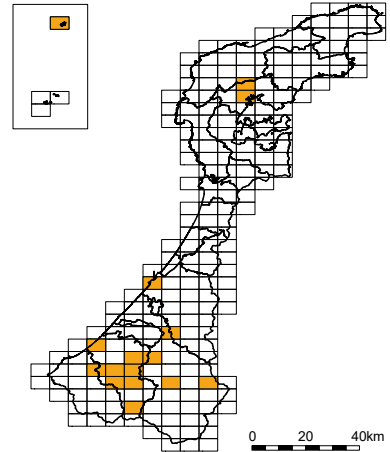
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧

- 選定理由 生態系上位の昆虫食種で、近年減少傾向にある。
- 形態 全長約29cm。全身褐色で灰白色や黒褐色の斑が多数ある。雄は翼、尾に大きく白斑があるが、雌の斑は小さく、尾にはない。嘴は小さいが口は大きく開き、空中で昆虫を捕らえるのに適応している。足は非常に短く、あまり歩行しない。
- 国内分布 夏鳥として九州から北海道までの里山から山地の明るい林に渡来する。北日本では平地にも分布する。
- 県内分布 夏鳥として山地の中の草地、伐採地、植林地など、森林内の開けた環境や明るい森林に渡来し繁殖する。
- 生態 夜行性で、飛びながら大きな口を開けてガなどの昆虫を捕る。森林内の開けた環境で営巣し、地面に直接産卵して抱卵・育雛を行う。繁殖期は6~7月、抱卵期間は約18日。
- 生息・生育環境 昆虫の豊富な明るい森林及び森林内の開けた環境。
- 危険要因 森林の開発、森林内の草地等の減少、放置された人工林の増加による採餌・繁殖環境の減少、越冬地である東南アジアの森林減少等。



木本祥太



木本祥太

県内の分布

イカルチドリ

チドリ目 チドリ科

Charadrius placidus Gray & Gray

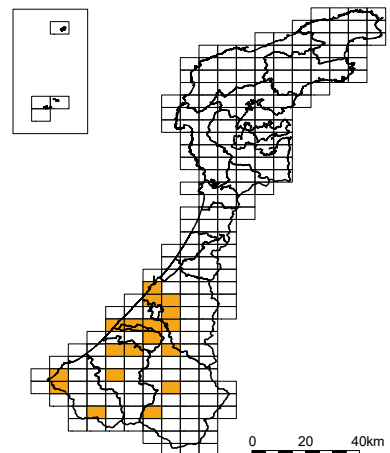
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 県内では梯川、手取川、犀川などの河川氾濫原に依存して繁殖し、生息場所が限られている。
- 形態 全長21cm。翼長15cm。頭頂と上面は砂褐色で下面は白い。前頭部と目先から耳羽にかけての部分は褐色味のある黒色である。胸に細い黒色の帯があり、淡色の翼帯がある。嘴はやや長く黒色で、脚は淡黄色である。
- 国内分布 北海道、本州、四国、九州に生息する。北日本では繁殖後、暖地へ移動する。越冬北限は、太平洋側は青森県、日本海側は新潟県といわれている。
- 県内分布 河川の中流域の中州や河原で繁殖するが、数は少ない。渡りの時期には県内各地で観察されることがある。冬期は水田等で越冬している。
- 生態 河川の中州や河原で2~7月に繁殖し、砂利、小石、小枝などを産座に集めた簡単な巣を地上に作る。一腹卵数は4個が多く、約29日で孵化する。採餌場所は主に河川や湿地で、餌は水生昆虫などの小動物である。
- 生息・生育環境 営巣場所は植物が繁茂しない河原であるが、人間活動による影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが条件となる。
- 危険要因 県内では砂礫地のある大きな河川が少なく、もともと生息数が少ない上に、近年の河川工事やレクリエーションなどの人為的影響を受けている。また河川管理による河川水位の低下で河原が冠水することが少なくなり、草木の繁茂などで営巣環境が悪化している。
- 参考文献 15



中西正太郎



木本祥太

県内の分布

オオジシギ

チドリ目 シギ科

Gallinago hardwickii (Gray)

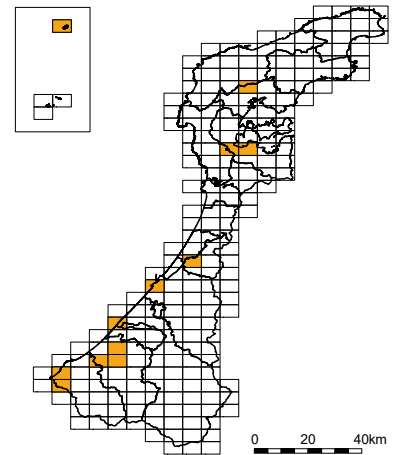
石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリ 準絶滅危惧

- 選定理由 近年、奥能登地域では繁殖行動が確認されている。生息は局所的で、個体数も少ないと考えられる。本州の繁殖地は少なく、希少な存在である。
- 形態 全長30cm。嘴はまっすぐで長く、黄褐色で先端は黒い。頭央線、眉斑、喉はクリーム色で、頭側線、過眼線、頬線は暗褐色。背にはクリーム色の縦斑が見える。頸、胸は淡黄褐色で黒褐色の縦斑があり、胸から脇には黒褐色の横斑がある。腹は白い。尾羽の枚数は16~18枚が普通。
- 生態 草原の地上に皿形の巣を作る。繁殖期、雄は「ジャツ、ジャツ、ジャツ…、ズビーヤク、ズビーヤク」と鳴きながら飛び回り、急降下するとき「ザザザザ」と尾で大きな音を発するディスプレイフライトを主に夜間に行う。餌は主にミミズや昆虫類などの小動物で、植物の種子も食べる。
- 国内分布 北海道では草原や湿原、本州では主に中部以北の高原などで繁殖し、春秋の渡りの時期にはほぼ全国で観察される。広島など中国山地での繁殖例もある。
- 県内分布 奥能登地域では5~7月に複数羽のディスプレイフライトが見られ、局所的ではあるが繁殖していると考えられる。過去には小松空港や金沢市の大浜埋立地で繁殖していたが、その後の環境変化で消失してしまった。春秋の渡りの時期には、県内各地の水田や草地で観察される。
- 生息・生育環境 人のあまり入らない湿原や、低木の混じった草原、牧場、農耕地などの開けた環境で繁殖する。本州では標高の高い地域に生息するといわれてきたが、近年は標高の低い場所での繁殖も確認されており、植生などの環境に左右されることが分かってきている。
- 危険要因 奥能登地域での繁殖地については、開発の影響で観察される個体数が減少したところもあり、開発や人の入り込みから生息地を保護する必要がある。



中西正太郎



県内の分布

富沢直浩

オジロワシ

タカ目 タカ科

Haliaeetus albicilla (Linnaeus)

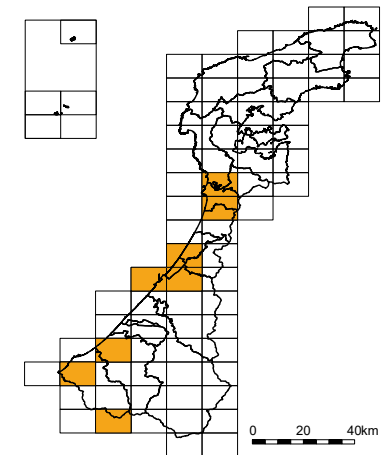
石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 沿岸、河川、湖沼などの水界生態系の頂点に位置する大型のワシで、県内には冬鳥として数羽が越冬するのみである。
- 形態 全長約90cm。翼開長約2.2m。雄よりも雌が大きい。大型のワシで、翼は広大で尾は短く、ややさび形である。成鳥の体は茶褐色で、頭から胸部にかけてクリーム褐色、尾羽は白い。幼鳥と若鳥は全身褐色で、尾羽は齡ごとに白色部が増す。嘴と足は黄色。
- 生態 北海道東部、北部の繁殖地では、広い原生林の続く湖沼畔や海岸にすみ、高木の枝上や海岸の断崖で営巣する。越冬地では海岸、河口、湖沼などにすみ、魚類や死んだり弱ったりしたガンカモ類を捕食する。
- 国内分布 本州中部以北の河口や湖沼に冬鳥として渡来するが、九州や琉球列島まで南下することもある。北海道東部、北部で少数が繁殖している。
- 県内分布 以前は、片野鴨池、木場潟、手取川、河北潟、邑知潟などに定期的に渡来していたが、近年は定期的渡来地はなくなった。
- 生息・生育環境 餌となる魚類や鳥類が豊富に生息し、餌場から遠くない所に外敵が近づかない安全な場所が存在し、汚染されていない水辺に生息する。
- 危険要因 水界生態系の頂点に位置するため、農薬などによる生物濃縮の影響を受けやすい。
- 特記事項 国内希少野生動物種、国指定天然記念物。



矢田新平



県内の分布

笹原裕二

クマタカ

タカ目 タカ科

Nisaetus nipalensis Hodgson

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

■**選定理由** 小型から中型の森林性の鳥獣の捕食者として、丘陵帯から亜高山帯までの森林生態系の頂点に位置する大型のタカである。全国的に繁殖成功率の低下が懸念されている。

■**形態** 全長約75cm。翼開長約1.5m。雄よりも雌が大きい。トビよりも大きいタカで、幅広く短い翼をもつ。全体に暗褐色で下面は淡く、胸には縦斑、腹には横斑がある。頭部は黒色で、後頭部の羽毛は冠羽状になる。尾には幅広い黒帯が数本ある。飛んでいるときに下から見ると、翼と尾の鷹斑がよく目立つ。幼鳥は全体に白っぽい。

■**生態** 丘陵帯から亜高山帯の森林に生息し、大木に営巣。近年、営巣していたアカマツ林の枯死により、スギに営巣する例が多くなっている。繁殖活動に入るのは早く、1月中旬には巣作りを開始し、多くは3月に産卵する。一腹卵数はふつう1個で、抱卵日数は約43~50日、孵化から約70~80日後の7~8月に巣立ちする。大型のタカでありながら林内の飛翔も得意とし、森林内で待ち伏せによる狩りを行うことも多い。ヤマドリなどの大型鳥類からシジュウカラのような小型鳥類、ノウサギやムササビなどの哺乳類、八虫類など獲物は多岐にわたる。

■**国内分布** 北海道、本州、四国、九州の山地で繁殖し、周年同一地域に生息する。佐渡、隠岐、対馬でも記録がある。

■**県内分布** 石動山以南の山地に広く生息している。近年、能登地方へも分布を広げているが、加賀地方と比較して生息密度は低い。

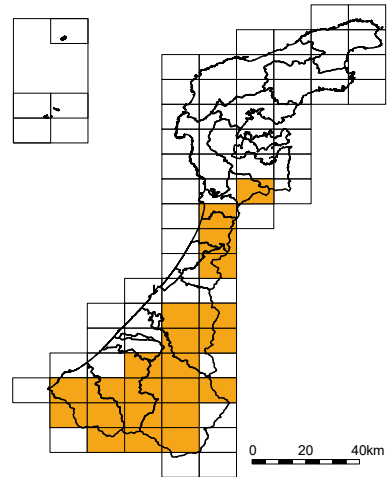
■**生息・生育環境** 低山から亜高山帯の広葉樹と針葉樹の混交林や針葉樹林に営巣する。1ペアのクマタカが生息するためには4km四方の土地が必要といわれる。山間の伐採地、密でない林間、開けた谷、林道などで狩りをするので、そのような餌場の存在も重要。

■**危険要因** 森林伐採、林道工事、砂防工事などの山間地での開発行為や人間活動。

■**特記事項** 国内希少野生動物種。



富沢直浩



県内の繁殖分布

笹原裕二、今森達也

オオコノハズク

フクロウ目 フクロウ科

Otus lempiji (Horsfield)

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー なし

■**選定理由** 山地帯、低山帯に棲む小型猛禽類で、個体数が少ない。

■**形態** 全長約20~25cmで雌雄同色。全身ほぼ褐色で黒い縦斑と横斑がある。頭部には大きな羽角がある。眼の虹彩はオレンジ色。

■**生態** 夜行性で、小鳥類、両生類、爬虫類、小型哺乳類などを捕る。5~6月に大木の樹洞に営巣し、4~5卵を産む。

■**国内分布** 留鳥として小笠原諸島を除く全国の山地帯から低山帯の森林、時には平地林にも生息する。北海道、東北のものは冬期南下する。

■**県内分布** 白山麓で繁殖の記録があるが、それ以外の生息状況はよくわかっていない。現在は夏鳥とされているが、留鳥の可能性も残されている。春秋の渡りの時期には平地や市街地でも見られることがある。

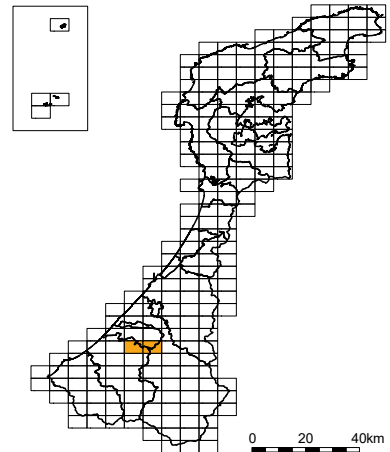
■**生息・生育環境** 営巣木となる樹洞のある大木があり、餌動物の豊富な森林。

■**危険要因** 森林開発による営巣木の減少が考えられるが、実態はよくわかっていない。

笹原裕二



矢田新平



県内の分布

コノハズク

フクロウ目 フクロウ科

Otus sunia (Hodgson)

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー なし

■**選定理由** ブナ林など発達した森林を代表する小型猛禽類であり、近年減少している。

■**形態** 全長約20cmで雌雄同色。灰色型と赤色型がある。灰色型は全身が灰褐色、赤色型は全身が赤褐色で、どちらも濃い斑が散在している。頭部には小さな羽角がある。眼の虹彩は黄色。

■**生態** 夜行性で、昆虫を主食とする。山地の大木の樹洞で繁殖し、5～6月頃に4～5卵を産む。

■**国内分布** 九州以北に夏鳥として渡来し、本州では山地の森林、北海道では平地林にも繁殖する。

■**県内分布** 夏鳥として白山山系など山地帯のブナ林などに渡来し、繁殖する。春秋の渡りの時期には平地や市街地でも観察されることがある。

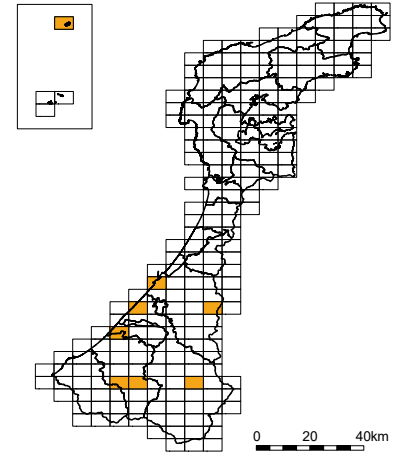
■**生息・生育環境** 営巣木となる樹洞のある大木が存在する山地の発達した森林。

■**危険要因** 山地の森林伐採が心配されるが、減少の詳しい原因はよくわかっていない。

笹原裕二



富沢直浩



県内の分布

アオバズク

フクロウ目 フクロウ科

Ninox scutulata (Raffles)

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー なし

■**選定理由** 平地から低山帯にかけて生息する小型猛禽類で、近年減少している。

■**形態** 全長約29cmで雌雄同色。頭部から上面は黒褐色で、下面は白く黒褐色の大きな縦斑がある。羽角はなく、眼の虹彩は黄色。

■**生態** 夜行性で主に大型昆虫を捕り、爬虫類や小鳥を捕ることもある。繁殖期は6～8月で主に大木の樹洞に営巣するが、時には建造物の穴に営巣することもある。一腹卵数は3～5卵。

■**国内分布** 夏鳥として全国の平地から低山の森林、寺社林に渡来する。

■**県内分布** 夏鳥として平地から低山の森林、寺社林に渡来する。かつては人家付近でも普通のフクロウ類であったが、近年減少が著しい。

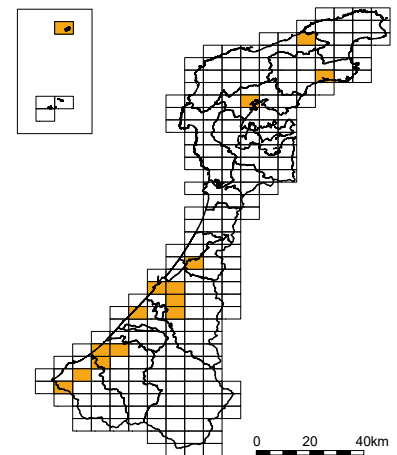
■**生息・生育環境** 営巣木となる樹洞のある大木が存在する寺社林など。

■**危険要因** 伐採による営巣木の減少や餌となる大型昆虫の減少などがあげられるが、減少の原因はよくわかっていない。

笹原裕二



岡 望



県内の分布

ブッポウソウ

ブッポウソウ目 ブッポウソウ科

Eurystomus orientalis (Linnaeus)

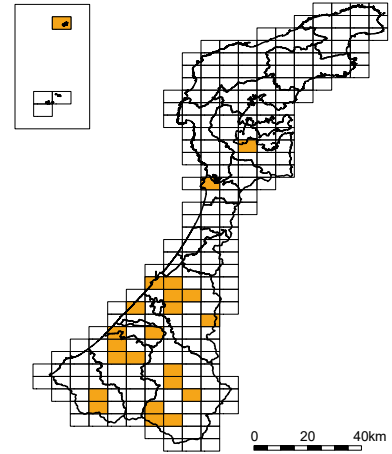
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

- 選定理由** ブナ林など発達した森林に生息する種であり、個体数が少ない。近年減少している。
- 形態** 全長約30cm。全身青みがかった緑色で、頭部は黒色味が強い。足、嘴は赤。風切羽には白斑があり、飛翔時に目立つ。
- 国内分布** 夏鳥として本州、四国、九州の発達した森林に渡来するが、分布は極めて局地的である。
- 県内分布** 夏鳥として山地帯の発達した森林に渡来するが、数は少ない。
- 生態** 大型昆虫を主食とし、高木にとまって昆虫を見つけると、飛翔しながら捕捉する。5～7月が繁殖期で、大木の樹洞などで営巣し3～6個の卵を産む。抱卵期間は約25日、育雛期間は約26日。キツツキ類やムササビの古巣を多用することがわかっている。巣箱も利用することが知られる。
- 生息・生育環境** 営巣木となる大木と、餌となる大型昆虫が豊富に生息する自然環境。
- 危険要因** 営巣木となる大木・枯損木の伐採。放置人工林の増加等、森林環境の変化による、餌となる大型昆虫の減少。
- 参考文献** 7



中本 総



木本祥太

県内の分布

ヤイロチョウ

スズメ目 ヤイロチョウ科

Pitta nympha Temminck & Schlegel

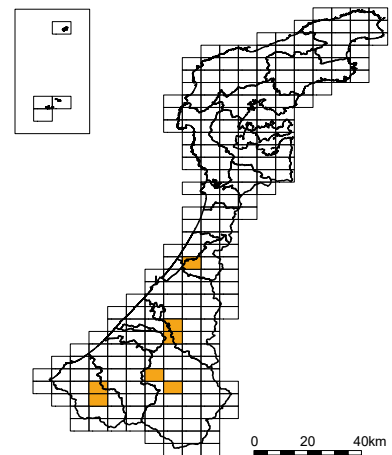
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

- 選定理由** よく発達した低山の森林に生息する種であり、本県では個体数が少ない。
- 形態** 全長18cm。雌雄同色。頭部は茶色で、黒い頭中央線がある。過眼線は太くて黒い。背中中は光沢のある緑色。初列風切は黒く外側の基部は白いため、飛ぶときは上面の白斑が目立つ。腹の中央部から下尾筒にかけては赤い。尾は短い。足は肉色で長くがっしりしている。
- 国内分布** 少ない夏鳥として本州中部以南、四国、九州で局地的に繁殖するが、確認記録は秋田県までである。
- 県内分布** 従来迷鳥的で散発的な渡来記録だったが、近年記録が増えている。数の少ない夏鳥として、主に加賀地方の低山帯に渡来し繁殖すると考えられる。
- 生態** 主に低山帯の発達した広葉樹林に生息する。繁殖期は5～7月にかけてであり、一夫一妻で繁殖の全てを共同で行う。抱卵、育雛ともに14～16日程度を要する。地上の木の根元や岩の上などに、コケ類などを用いて巣を作る。土壌動物や地上を徘徊する昆虫類を餌とするが、ミミズが中心である。
- 生息・生育環境** よく発達した広葉樹林。
- 危険要因** 森林伐採など生息環境の悪化が危惧されるが、実態はよく分かっていない。
- 特記事項** ワシントン条約附属書Ⅱ
- 参考文献** 16



中山博史



木本祥太

県内の分布

コシアカツバメ

スズメ目 ツバメ科

Hirundo daurica Laxmann

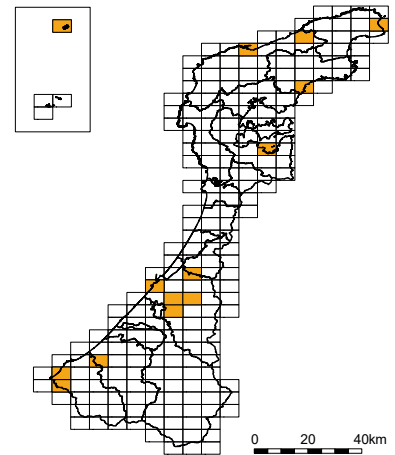
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 県内には局地的に生息しているが、近年の個体数の減少が著しい。
- 形態 全長約19cmでツバメよりも大きく、雌雄同色。頭、背など上面は紺色光沢のある黒色で赤褐色の腰が特徴。胸、腹など下面は淡褐色で、細かい縦斑がある。
- 生態 ツバメの生態に似るが、ツバメほど群れることはなく、大きな群れはつくらない。とっくり型の特徴的な形の巣を作り、一般家屋よりもビルや橋などコンクリート製建造物を好む。
- 国内分布 夏鳥として九州以北に渡来するが、ツバメより数は少ない。
- 県内分布 局地的に分布し、海岸よりの住宅地や橋桁、山間のビルなどに繁殖する。
- 生息・生育環境 海岸よりの市街地で見ることが比較的多い。
- 危険要因 近年減少が著しいが、減少の原因はよくわかっていない。



中西正太郎



笹原裕二

県内の分布

ノジコ

スズメ目 ホオジロ科

Emberiza sulphurata Temminck & Schlegel

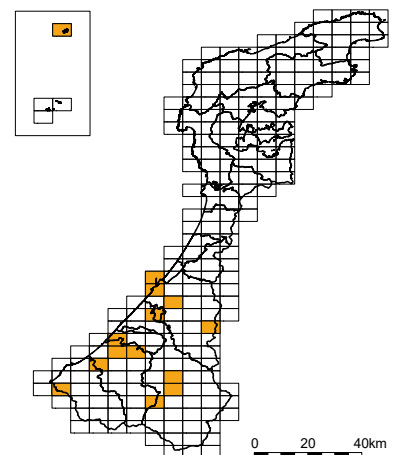
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 準絶滅危惧種

- 選定理由 繁殖分布は日本に限られ、国内でも県内でも分布は局地的で個体数も少ない。
- 形態 全長約14cm。全身黄色っぽい緑色で、胸、腹など下面は淡い。目の周りに白いアイリングがある。雄は目先が黒いが、雌は目先が黒くなく頭部の緑色味が少ない。
- 生態 繁殖期は5～7月で、低木の茂みや地上に営巣し、3～5卵を産む。主食は草の種子などだが、昆虫も捕る。
- 国内分布 夏鳥として渡来し、本州中部から青森県にかけて分布する。低山から山地の明るい広葉樹林や灌木のある草原に繁殖する。
- 県内分布 金沢市の医王山、犀川上流域、白山市の直海谷川上流域の山々に局地的に分布する。
- 生息・生育環境 湿地を含む落葉広葉樹林や溪流沿いのハンノキ、クルミ類などの疎林に生息するが、詳細はよく分かっていない。
- 危険要因 森林の伐採、溪流の砂防工事。越冬地での密猟（飼育用、食用）など。



中本 總



笹原裕二

県内の分布

コジュリン

スズメ目 ホオジロ科

Emberiza yessoensis (Swinhoe)

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

■**選定理由** 全国的に個体数が少なく、県内でも知られた繁殖地は河北潟干拓地のみで、個体数が少ない。

■**形態** 全長約15cm。全身褐色で胸から腹は淡褐色。雄の夏羽では頭巾を被ったように頭部が黒い。

■**生態** 繁殖期には、ヨシや背の高い草にとまってさえずる。5～7月にイネ科の草の根元に営巣し、3～5卵を産む。

■**国内分布** 本州中部から東北地方の平野部と九州の高原で局地的に繁殖し、本州中部以南のヨシ原や草原で越冬する。

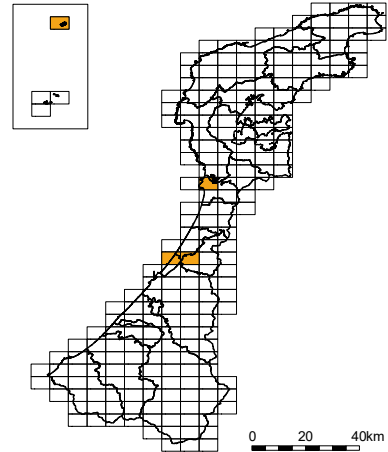
■**県内分布** 春から夏に河北潟干拓地の牧草地や麦畑で少数が見られ、繁殖も確認されたことがある。河北潟干拓地などでは農業に依存している部分が大きく、作物転換に大きく影響を受ける可能性がある。渡りの時期には舩倉島などでも観察される。

■**生息・生育環境** ヨシ原、牧草地、麦畑など広い草原。

■**危険要因** 牧草地や麦畑の作物転換、放棄などによる生息地の草原の消失。



中本 総



笹原裕二

県内の分布

ヤマドリ

キジ目 キジ科

Syrmaticus soemmerringii (Temminck)

石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

■**選定理由** 県内の山地に広く分布するが近年個体数が減少している。

■**形態** 雄は全長125cm、長い尾羽を持つ。全身赤褐色で顔は赤い皮膚が露出している。雌は全身褐色で尾羽は短い。

■**生態** 低山から山地の森林にすみ、主に植物の葉や種子、木の実などを食べ、昆虫も食べる。繁殖期、雄はドラミングと呼ばれる大きな羽音を立てる。

■**国内分布** 本州、四国、九州の低山から山地の森林に留鳥として生息する。

■**県内分布** 海岸部を除き、県内の低山から山地の森林に広く分布する。

■**生息・生育環境** 餌となる多様な植物のある森林。

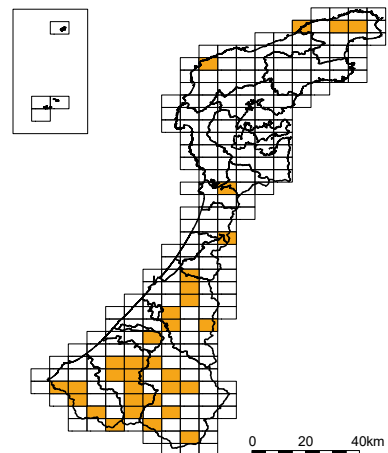
■**危険要因** 雄に対する狩猟圧はあるが、主たる要因はよく分かっていない。

■**特記事項** 狩猟鳥。

■**参考文献** 4



富沢直浩



竹田伸一

県内の分布

オシドリ

カモ目 カモ科

Aix galericulata (Linnaeus)

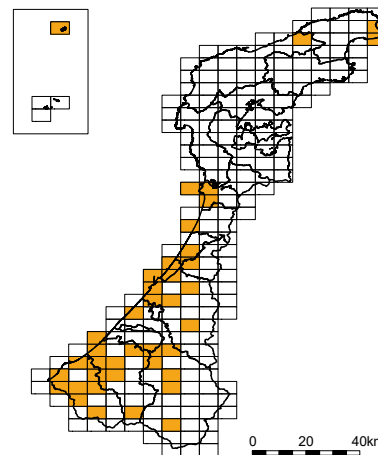
石川県カテゴリ 準絶滅危惧

環境省カテゴリ 情報不足

- **選定理由** 繁殖できる森林が減少し、繁殖個体数が減少している。越冬する個体数も少ない。
- **形態** 全長41～47cm。雄の繁殖羽は頭頂から後頭に冠羽があり、顔は白く、胸は紫色で胸側に2本の白い筋がある。銀杏羽とよばれるオレンジ色の扇形の羽を翼に持つ。雌は全体が褐色味を帯びた暗灰色で、地味な羽色である。雄の非繁殖羽は雌に似る。足はオレンジ色。
- **生態** 繁殖は低地から低山帯の水辺の林の樹洞で営巣する。主に植物食でドングリを好む。穀類、水生植物を食べるほか、カタツムリ、魚などの小動物も採食する。
- **国内分布** 主に中部地方以北で繁殖し、冬期は西日本で越冬するものが多い。北海道では夏鳥。
- **県内分布** 低山帯の所々で繁殖をしているが、その繁殖形態から直接的な観察例は少ない。繁殖期以外は大きな河川の上流の渓谷やダム湖などに少数が生息する。
- **生息・生育環境** 水辺を好むため、山地の林に囲まれた湖沼や渓谷。営巣のために樹洞がある大きな木がある森林を必要とする。
- **危険要因** 樹洞のできる大きな木の減少。かつて広く実施されていた山林の針葉樹林化によって食物となるドングリになる森林も減少している。



岡望



山本芳夫

県内の分布

シノリガモ

カモ目 カモ科

Histrionicus histrionicus (Linnaeus)

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

環境省カテゴリ なし

- **選定理由** 個体数が少なく、落ち着いて生息できる環境が狭められている。
- **形態** 全長38～45cm。雄は模様が美しいカモで、冬羽は頭から上胸と背が青灰色で、眼より前面が白色、耳部に大きい白円斑、その後方にも白い縦長斑がある。胸側と肩羽にも白い帯斑がある。後頭部が赤栗色で、脇は栗褐色、翼は暗褐色で白色の斑や線がある。尾は黒く、側方に小さな白斑がある。雌は眼の下と耳部の大きな白斑があり、全体が褐色。非繁殖羽は雌に似るが、上面がより暗褐色である。
- **生態** 冬期は波の荒い岩礁海岸で、小群で見られる。越冬地では甲殻類や貝類を潜水して捕食する。繁殖期には内陸の森林内の溪流に移動し、溪流沿いの車むらや岩陰などに営巣する。動物食で、繁殖期には主にトビケラやその幼虫を食べる。
- **国内分布** 冬鳥として渡来し主に北日本で越冬する。少数が東北及び北海道で繁殖する。
- **県内分布** 能登外浦の海岸に多く、羽咋市柴垣や滝海岸などに数十羽が越冬する。砂浜が多い。加賀海岸ではテトラポットのある場所で観察されることもあるが、個体数は少ない。
- **生息・生育環境** 人が近づかない波の荒い岩礁で、貝類や甲殻類が多く生息する場所。
- **危険要因** 越冬地での人間活動。岩礁地帯は岩ノリ採り、砂浜はサーファー等の影響で、落ち着いて採食できる環境が減少している。



中村正男



山本芳夫

県内の分布

ビロードキンクロ

カモ目 カモ科

Melanitta fusca (Linnaeus)

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

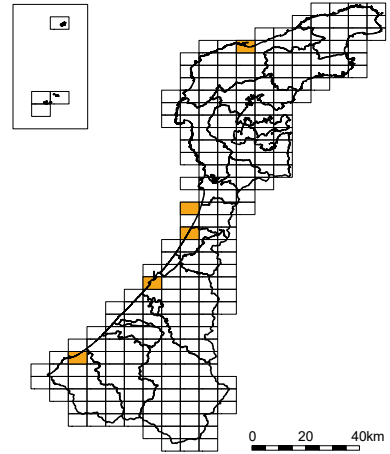
環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 個体数が減少している。
- **形態** 全長51～68cm、雄は全身黒色で目の下に三日月形の白斑がある。嘴は赤く上嘴基部は黒くて小さな瘤状になりよく目立つ。雄は全身黒褐色で目先と頬に白斑がある。
- **生態** 沿岸や海上に生息し、浅い海底で潜水して貝類などを採食する。
- **国内分布** 冬鳥として全国の沿岸、海上に渡来するが、北日本に多い。
- **県内分布** 冬鳥として県内の沿岸に渡来するが、能登での観察例は少ない。
- **生息・生育環境** 貝類など豊富な底生生物のすむ海岸。
- **危険要因** 重油流出などの海洋汚染や定置網などでの混獲が予想されるが、実態はよくわかっていない。

山本芳夫



矢田新平



県内の分布

クロガモ

カモ目 カモ科

Melanitta americana (Swainson)

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

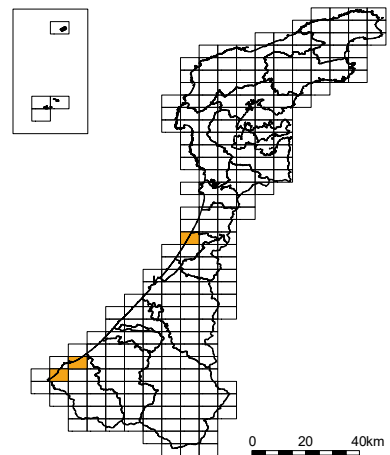
環境省カテゴリー 情報不足

- **選定理由** 個体数が減少している。
- **形態** 全長44～54cm。雄は雌より大きく全身黒色でくちばしの付け根に黄色い瘤がある。雌は顔部が灰褐色で、体の他の部分は黒褐色、頬が白っぽい。
- **生態** 潜水して海洋性の貝類、甲殻類などを食べる。雄は「ピーイ」と口笛に似た澄んだ声を出す。
- **国内分布** 冬鳥として九州以北の海岸に渡来するが、北海道と北日本太平洋側に多い。
- **県内分布** 冬鳥として県内の沿岸に少数が渡来する。
- **生息・生育環境** 貝類など豊富な底生生物のすむ海岸。
- **危険要因** 重油流出などの海洋汚染や定置網などの混獲が予想されるが、実態はよくわかっていない。
- **特記事項** 狩猟鳥であるが、石川県では猟が禁止されている。

山本芳夫



中村正男



県内の分布

ササゴイ

ペリカン目 サギ科

Butorides striata (Linnaeus)

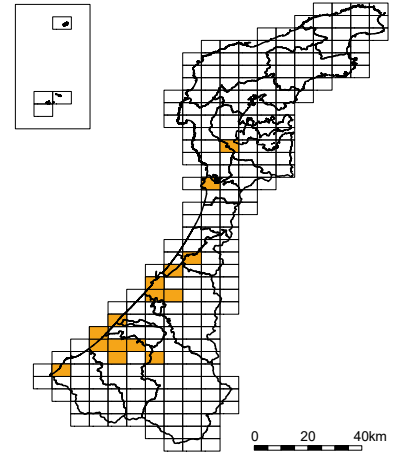
石川県カテゴリ 準絶滅危惧

環境省カテゴリ なし

- 選定理由 個体数が少なく、繁殖できる環境の減少により生息数が減少している。
- 形態 全長約40～48cm。雌雄同色。羽色は頭上が黒色で、後頭部から黒い冠羽が伸びる。背と雨覆は光沢のある濃い灰色。下面は明るい灰色で、足と眼は黄色い。幼鳥は頭から背にかけて濃い茶色で顔から胸にかけて縦斑がある。
- 生態 水辺に生息し、魚、カエル、ザリガニなどを食べる。日中だけでなく夜間もさかんに採食する。飛びながら「キュー」または「ピュー」という鋭い声で鳴く。単独もしくは小さなコロニーをつくり繁殖する。
- 国内分布 夏鳥として渡来し、本州から九州で繁殖。九州南部では冬にも留まるものがある。薩南諸島以南から東南アジアにかけては冬鳥として渡来し、3月頃まで越冬する。
- 県内分布 水辺近くの林や藪で繁殖するが局地的である。
- 生息・生育環境 近くに川や池などの餌が豊富な場所があり、繁殖地として人が近づかない林や藪を必要とし、近くに川や池などの餌が豊富な場所を必要とする。
- 生息・生育環境 繁殖地となる水辺近くの林や藪が減少。河川改修等で営巣場所や食物となる魚などの減少。



田中秀雄



山本芳夫

県内の分布

クロサギ

ペリカン目 サギ科

Egretta sacro (Gmelin)

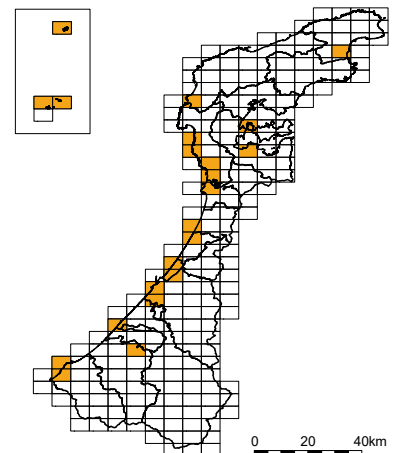
石川県カテゴリ 準絶滅危惧

環境省カテゴリ なし

- 選定理由 個体数が少ないうえ、繁殖地が限られており、繁殖環境も脆弱である。
- 形態 全長58～66cm。雌雄同色。全身がすすけた濃い灰色で、喉は黒いものと小さな白い部分があるものがある。嘴は黄褐色だが黒っぽい個体もある。夏羽では目立たない短い冠羽がある。足は黄緑色。亜熱帯から熱帯のサンゴ礁の海岸には全身が白い白色型がいる。
- 生態 岩礁海岸に生息。磯の波打ち際で魚を待ち伏せする。繁殖期は5～6月で、断崖の岩の隙間に枝を運び込んで巣を作る。時には低木の枝の上に営巣することもある。非繁殖期には岩礁を離れて干潟や河口で観察されることもある。
- 国内分布 本州以南に分布。太平洋側では房総半島以西、日本海側では男鹿半島以南で局地的に繁殖している。
- 県内分布 繁殖期以外は能登から加賀の海岸に広く分布するが個体数は少ない。確実な繁殖記録は能登だけである。
- 生息・生育環境 餌が豊富な岩礁海岸で、人の影響が少ない場所。
- 危険要因 営巣地周辺での人間活動。特に釣り人の影響は大きい。



中村正男



山本芳夫

県内の分布

ヘラサギ

ペリカン目 トキ科

Platalea leucorodia (Linnaeus)

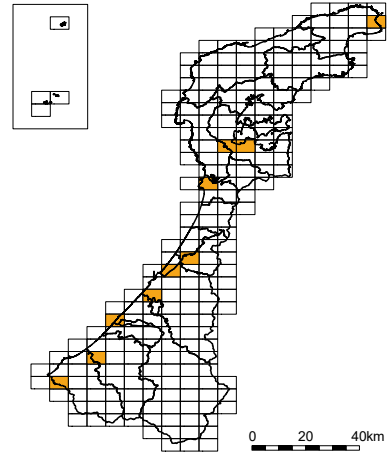
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー 情報不足

- **選定理由** 個体数が少ないうえ、渡来地が限られている。繁殖期にも観察されることもある。
- **形態** 全長70～95cm。全身白色で、嘴と足は黒い。繁殖期には冠羽を生じ、頸の下部が黄色を帯びる。嘴は平たく、先がふくらんでしゃもじのような形をしている。
- **生態** 嘴を垂直に水中に入れ、左右に振って間に入った水生昆虫類、小型のエビや貝類、小魚類などをくわえとって食べる。
- **国内分布** 数は少ないが、冬期に20羽前後の渡来が継続的にある。九州が主な越冬地で、渡りの時期には西日本を中心に各地で観察される。
- **県内分布** 湖沼や河口付近で観察されることが多い。七尾西湾周辺では越冬記録もある。
- **生息・生育環境** 河口部干潟及び浅瀬。水田、湿地。
- **危険要因** 湿地の減少。カメラマンに追いかけられ、ゆっくり採食できないこともある。



山本芳夫



山本芳夫

県内の分布

バン

ツル目 クイナ科

Gallinula chloropus (Linnaeus)

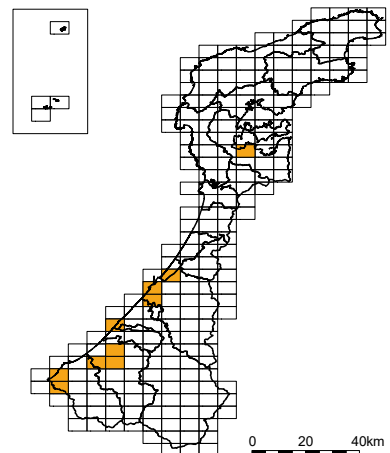
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 県内に広く主に夏鳥として渡来するが、近年個体数が減少している。
- **形態** 全長約32cmで雌雄同色。頭部から下面全体は黒く、上面は褐色味がある。脇には細い白斑があり、額板と嘴は赤く、嘴の先は黄色。
- **生態** 湖沼、河川、水田、湿地などに生息。水辺の草の中や浅水中に枯草を積み上げて巣とし、5～10卵を産む。
- **国内分布** 全国で繁殖し、本州中部以南で越冬する。
- **県内分布** 主に夏鳥として広く渡来し、少数は冬にも見られる。
- **生息・生育環境** 湖沼、河川、水田、湿地など。
- **危険要因** 生息環境が減少したり悪化したりしているとはあまり考えられず、減少の原因はよくわかっていない。
- **特記事項** 狩猟鳥であるが、石川県では猟が禁止されている。



中村正男



笹原裕二

県内の分布

カッコウ

カッコウ目 カッコウ科

Cuculus canorus Linnaeus

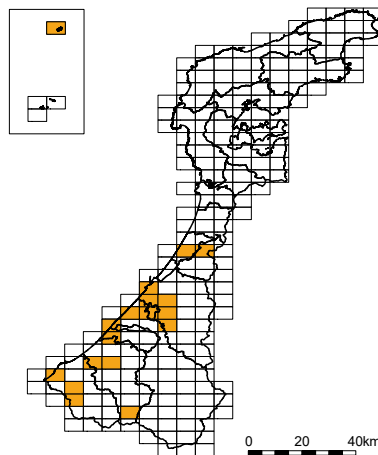
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 県内に広く夏鳥として渡来するが、近年個体数が減少している。
- 形態 全長約35cmで雌雄ほぼ同色。頭部から胸や上面は青灰色で、腹以下の体下面は白く、腹には黒褐色の細い横斑がある。
- 生態 平地から山地の草原、農耕地、河川敷などの開けた環境に生息する。ホオジロ、モズ、オオヨシキリなどに托卵する。繁殖期に雄は「カッコウ・・・」と鳴き、雌は「ピピピピッ・・・」と鳴く。
- 国内分布 夏鳥として九州以北に渡来する。
- 県内分布 夏鳥として県内に広く渡来する。
- 生息・生育環境 草原、農耕地、河川敷などの開けた環境。
- 危険要因 生息環境が減少したり悪化したりしているとはあまり考えられず、減少の原因はよく分からない。



岡望



笹原裕二

県内の分布

シロチドリ

チドリ目 チドリ科

Charadrius alexandrinus Linnaeus

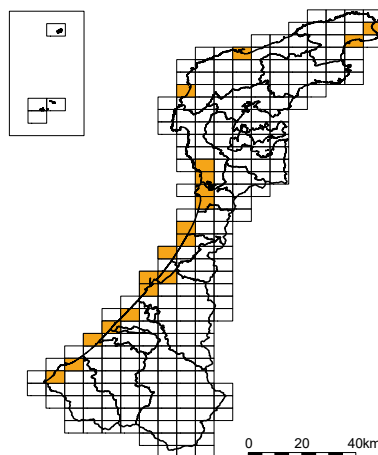
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 繁殖個体数は少なく、海岸浸食などで繁殖環境の悪化が危惧されているが、今のところ生息状況は安定している。
- 形態 全長17cm。雄の夏羽では頭部が茶褐色で、上面は灰褐色。前頭部には黒帯がある。額から続く眉斑は白色で、目の前後には黒色の線がある。喉から腹にかけては白色。雌は頭部や上面は灰褐色で下面は白色。雌雄とも嘴と足は黒色。
- 生態 砂浜海岸や河川の砂礫地などに生息し、海岸植物群落の近くで地面に小さな窪みを掘って産卵し繁殖する。繁殖期は4~7月、約3週間で孵化する。
- 国内分布 北海道から南西諸島まで広く分布するが、繁殖するのは九州以北。北日本のものは繁殖後、西日本や九州に移動して越冬する。
- 県内分布 県内の砂浜海岸に広く分布している。主な生息地は加賀地方の海岸だが、能登半島でも砂浜海岸のある所には生息している。繁殖ペアは30~40と推測される。繁殖期が終わると群れを作り、一部は国内に渡るが、越冬する群れもある。
- 生息・生育環境 砂浜海岸で採食し、繁殖は後背の海浜植物の群落。
- 危険要因 海岸浸食による繁殖環境の悪化。侵入する4輪駆動車、オートバイなど人的な繁殖地の攪乱。大型船舶などからの油流出。海岸の集団清掃にも悪影響を受ける。
- 特記事項 かほく市の鳥、内灘町天然記念物。
- 参考文献 3, 10



中村正男



竹田伸一

県内の分布

ヤマシギ

チドリ目 シギ科

Scolopax rusticola Linnaeus

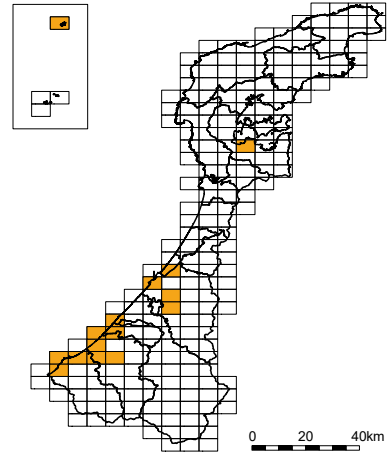
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

- 選定理由** 元々記録が少ないにも関わらず狩猟鳥であり、影響が心配される。
- 形態** 全長35cm。雌雄同色で、まっすぐで長い嘴を持つすんぐりと太ったシギ。全身褐色だが、背など上面は明るい茶色が目立ち、胸や腹はやや色が薄く、白っぽい。全身には黒褐色の斑点が多い。
- 生態** 低山の森林に生息し、湿地や水田で昆虫やミミズなどを採食する。昼間も活動するが、夜間に活発に動き、観察されることが多い。
- 国内分布** 北海道から本州中部にかけて、伊豆諸島などで繁殖し、冬期は西日本、九州、沖縄などに渡り、越冬する。
- 県内分布** 県内では主に冬期、低山の森林や農耕地に見られる。渡りの時期には海岸林や平野部でも見られることがある。山地で繁殖の可能性もあるが未確認である。
- 生息・生育環境** 低山から平地の森林に生息し、採食地は餌となる小動物が豊富な水田などの湿地。
- 危険要因** 水田の乾田化が進み、生息環境が悪化している。また狩猟鳥となっており、保護への関心も低い。
- 特記事項** 狩猟鳥。輪島市沖の舳倉島で繁殖した例がある。
- 参考文献** 3



中西正太郎



竹田伸一

県内の分布

ホウロクシギ

チドリ目 シギ科

Numenius madagascariensis (Linnaeus)

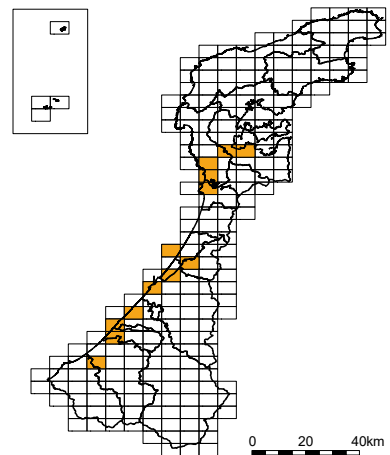
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由** 国内でも希少な大型のシギ類。県内でも個体数は非常に少ないが、観察される個体数は少ないながら安定している。
- 形態** 全長62cm。カラス大の大きなシギ。長くて下方に湾曲した嘴を持ち、足と頸の長い大型のシギ。全身淡褐色で黒褐色の斑点があり、足は青灰色。
- 生態** ロシアのカムチャツカ半島などに繁殖し、東南アジア、オセアニアなどで越冬する。日本には春秋の渡りの時期に飛来する旅鳥である。主に海岸干潟に渡来し、ゴカイやカニ、貝などを食べる。
- 国内分布** 春秋に、主に太平洋側の広い海岸干潟に渡来するが、海岸近くの水田や湖沼に飛来することもある。
- 県内分布** 七尾西湾の干潟や河北潟、手取川河口、柴山潟周辺などの水田で見られるが、ほとんどの場合単独で、個体数は少ない。ほぼ毎年のように記録されており、少ないながらも生息状況は安定している。
- 生息・生育環境** 餌となる生物の豊富な海岸や湿地、水田。
- 危険要因** 海岸浸食や水田の乾田化による渡来環境の悪化。
- 参考文献** 3, 10



中本 総



竹田伸一

県内の分布

ツルシギ

チドリ目 シギ科

Tringa erythropus (Pallas)

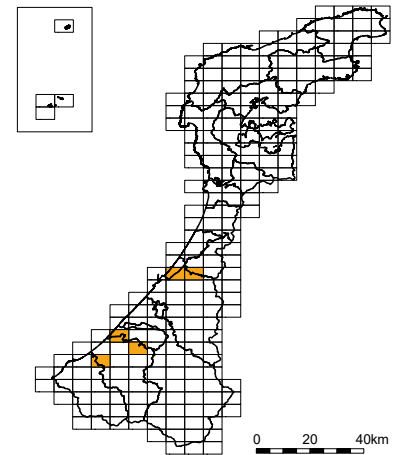
石川県カテゴリ 準絶滅危惧種

環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

- **選定理由** 生息は一定数が見られるものの、近年の個体数の減少が著しい。
- **形態** 全長32cm。雌雄同色。夏羽では全身黒色で上面には白い斑点が多数みられる。嘴の付け根と足は赤色で特徴的。冬羽では頭部から上面が灰褐色で、下面は白色。白い眉斑が目立つ。
- **生態** ロシアの極北地方に繁殖し、冬は東南アジアに渡る。春秋の渡りの時期に渡来する旅鳥。主に内陸の水田などに見られ、昆虫やミミズなど小動物を採食する。
- **国内分布** 春秋の渡りの時期に渡来し、全国の水田、湿地、ハス田などなどに生息する。海岸ではあまり見られない。
- **県内分布** 30年程前までは邑知潟、河北潟、柴山潟周辺など、県内の水田、湿地で大きな群れが見られたが、近年は個体数が減少した。
- **生息・生育環境** 餌となる小動物が豊富な内陸の水田、湿地。
- **危険要因** 水田の乾田化、水田の耕作放棄などが考えられる。
- **参考文献** 3, 10



中村正男



竹田伸一

県内の分布

タカブシギ

チドリ目 シギ科

Tringa glareola Linnaeus

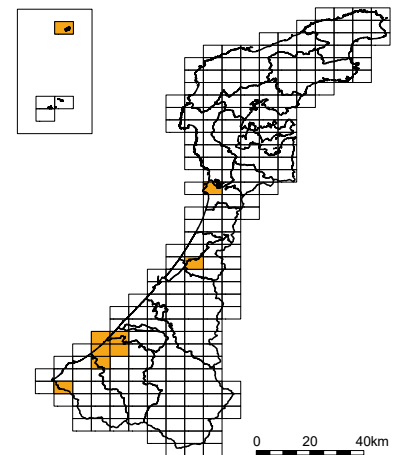
石川県カテゴリ 準絶滅危惧種

環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

- **選定理由** 生息は一定数が見られるものの、近年の個体数の減少が著しい。
- **形態** 全長20cm。雌雄同色。夏羽では頭部から背中は褐色で顔、胸、腹には細かい縦斑が密にある。下面は白色。嘴は黒色、足は緑がかった黄色。冬羽は頭部から上面がくすんだ黒褐色で、白い斑が密にある。
- **生態** ロシアの極北地方に繁殖し、冬は東南アジアに渡る。春秋の渡りの時期に渡来する旅鳥。主に内陸の水田などに見られ、昆虫やミミズなど小動物を採食する。
- **国内分布** 春秋の渡りの時期に渡来し、全国の水田、湿地、ハス田などなどに生息する。海岸ではあまり見られない。
- **県内分布** 30年程前までは邑知潟、河北潟、柴山潟周辺など、県内の水田、湿地で大きな群れが見られたが、近年は個体数が減少した。
- **生息・生育環境** 餌となる小動物が豊富な内陸の水田、湿地。
- **危険要因** 水田の乾田化、水田の耕作放棄などが考えられる。
- **参考文献** 3, 10



岡望



竹田伸一

県内の分布

イソシギ

チドリ目 シギ科

Actitis hypoleucos (Linnaeus)

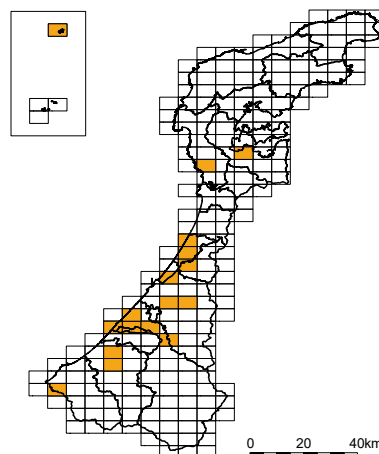
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 県内では限られた河川、湖沼で繁殖している。生息環境の悪化が危惧される。
- 形態 全長20cm。頭頂から体の上面は黒っぽい灰褐色で、顔から胸は白地に灰褐色の縦斑がある。腹は白色。嘴は黒褐色で、頭には白い眉斑がある。足は黄褐色。翼には白斑があり、飛翔時には白帯となって見える。
- 生態 主に河川の中州や河川敷、湖沼などの草地で地上に営巣し繁殖する。繁殖期は4～7月。卵は23～24日で孵化する。孵化した雛には羽毛があり、その日のうちに歩き出す。親の保護を受けながらも雛は独力で採食し、約1ヶ月で独立する。
- 国内分布 北海道から九州まで広く分布し、繁殖する。中部以北では夏鳥の場合も多く、繁殖が終わる秋には、西日本に移動するものも多い。
- 県内分布 県内では通年見られるが、夏鳥として繁殖のために飛来するものも多い。河川や湖沼近くで繁殖するものが多いが、渡りの時期や越冬期には海岸や港湾の防波堤にもみられる。
- 生息・生育環境 河川の中州や湖沼近くの湿地、水田。
- 危険要因 河川改修や水田の乾田化などが考えられる。
- 参考文献 3, 10



中村正男



竹田伸一

県内の分布

ミサゴ

タカ目 ミサゴ科

Pandion haliaetus (Linnaeus)

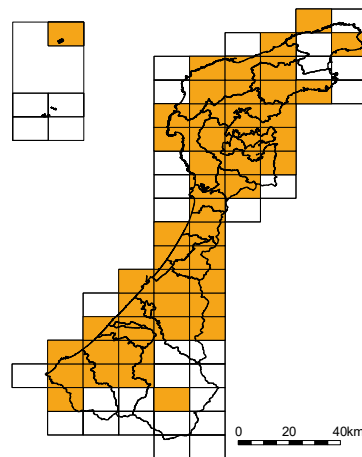
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー 準絶滅危惧種

- 選定理由 個体数は少なくないが、人間の生活圏に近い場所に生息するため、開発等により生存が脅かされやすい。また、金沢地方での減少が指摘されている。
- 形態 全長約60cm、翼開長1.6m。雌雄同色。雄よりも雌の方が大きい。トビよりやや大きいタカで、体の上面は褐色で、喉から下面は白い。顔には目立つ黒い過眼線があり、胸には褐色の斑がある。
- 生態 留鳥として、海岸や河川、湖沼に通年生息する。魚類が主食で空中から水面へ突っ込み魚をとらえて餌としている。抱卵日数は約35日、孵化後約50日で巣立ちする。採餌場所と営巣場所が別なため、営巣縄張りは小さく、時には狭い地域に営巣が集中することもある。また近年は鉄塔など、人工物での営巣も知られる。
- 国内分布 北海道から沖縄まで全国に広く分布し、九州以北で繁殖している。北日本のは秋に南へ移動し、暖地で越冬する。
- 県内分布 県内に広く分布し、柴山潟、木場潟、河北潟、邑知潟、七尾西湾、などの海岸や湖沼で周年見られ、白山麓など奥山を除く県内全域の山地で繁殖が確認されている。
- 生息・生育環境 餌となる魚類が豊富な沿岸、内湾、河川湖沼。営巣する大きな樹木のある環境が必要。
- 危険要因 1970年代までは水質汚染や、農業汚染などの影響を受け、環境汚染による減少のシンボルであったが、水質や農業の改善により、かつての脅威はなくなっている。現在は山間部の開発や林業による伐採など、人間活動に脅かされるおそれがある。
- 参考文献 3



中西正太郎



竹田伸一

県内の分布

ハチクマ

タカ目 タカ科

Pernis ptilorhyncus (Temminck)

石川県カテゴリ 準絶滅危惧種

環境省カテゴリ 準絶滅危惧種

■**選定理由** 個体数は少なく、人間の生活圏に近い場所に生息するため、開発等により生存が脅かされやすい。

■**形態** 全長約60cm、翼開長1.3m。雄よりも雌の方が大きい。ほぼトビ大のタカで、体色は個体差が大きい。上面は暗褐色だが、下面は白っぽいものから黒褐色のものまで様々である。雄成鳥では尾に太い2本の黒い帯がある。雌の尾には雄より細く黒い3、4本の帯がある。飛翔時には頸と尾が長く見える。

■**生態** 夏鳥として渡来し、丘陵部から低山帯の森林に生息する。主に昆虫類、両生類、爬虫類などを食べるが、特にハチの幼虫を好むとされ、名前の由来となっている。繁殖期は5月下旬から6月に始まり、約35日の抱卵後孵化し、約40日で巣立ちする。春秋には渡りの群れが見られるが、特に秋には群れを作って南下し、その様は「タカ渡り」と称される。

■**国内分布** 北海道から九州にかけて渡来するが、主に本州中部以北で繁殖し、西日本、九州、四国での生息数は少ないといわれる。秋には西日本や九州、四国で大きな群れが見られる。

■**県内分布** 夏鳥として、県内の丘陵部から低山の森林に渡来し繁殖する。秋の渡りの時期には加賀市、小松市、白山市、金沢市の山地の医王山などの上空を、サシバとともに渡る群れが観察される。

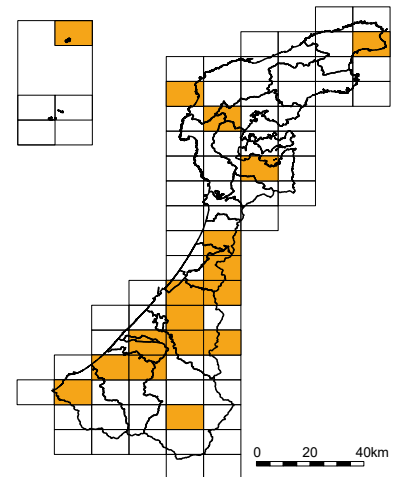
■**生息・生育環境** 餌となる昆虫類や小動物の豊富な低山の森林、いわゆる良好な自然が残る里山。営巣する大きな樹木のある環境が必要。

■**危険要因** 丘陵～山間部の開発や林業による伐採など、人間活動に脅かされる。

■**参考文献** 3



富沢直浩



竹田伸一

県内の分布

ツミ

タカ目 タカ科

Accipiter gularis (Temminck & Schlegel)

石川県カテゴリ 準絶滅危惧種

環境省カテゴリ なし

■**選定理由** 少数が局所的に繁殖していると思われる。人間の生活圏に近い場所に生息するため、開発等により生息が脅かされやすい。

■**形態** 全長雄27cm、雌30cm。雄よりも雌の方が大きい。雄の虹彩は赤く、頭部など体の上面が青灰色、下面は白色。胸から脇腹にかけて淡い橙色の横斑がある。雌の虹彩は黄色、上面が褐色味のある青灰色、下面には褐色の横斑がある。雌雄とも嘴の付け根は黄色。

■**生態** 平地から山地帯の森林に生息し、小鳥類を主食としている。4月下旬から5月上旬にかけて産卵し、抱卵期間は28日前後、孵化した雛は30日前後で巣立ちする。秋には南に渡る個体が観察される。

■**国内分布** 北海道から九州まで、夏鳥または留鳥として分布するが、九州、四国での繁殖は少ない。秋には渡りの群れも見られる。近年、関東地方では都市部での繁殖も知られる。

■**県内分布** 丘陵部から山地帯の森林に生息するが、県内では繁殖期の記録は多くはなく、渡りの時期の記録が多い。秋の渡りの時期には加賀市、小松市、白山市、金沢市の山地の上空をサシバ、ハチクマとともに渡る個体が観察されている。冬期の記録もあり、一部は越冬しているらしい。

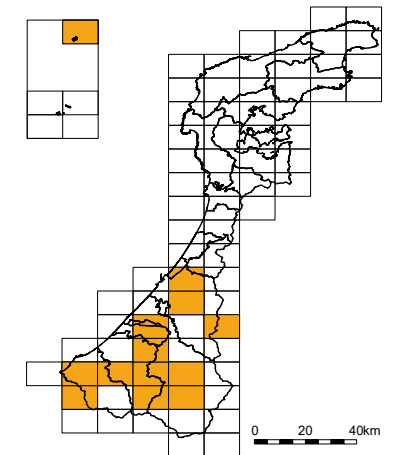
■**生息・生育環境** 丘陵部から山地帯の森林に繁殖しているが、局所的な上、個体数もごく少ないと思われる。観察例も少なく、詳しい繁殖状況は分かっていない。

■**危険要因** 山間部の開発や林業による伐採など、人間活動に脅かされる。

■**参考文献** 3



富沢直浩



竹田伸一

県内の分布

ハイタカ

タカ目 タカ科

Accipiter nisus (Linnaeus)

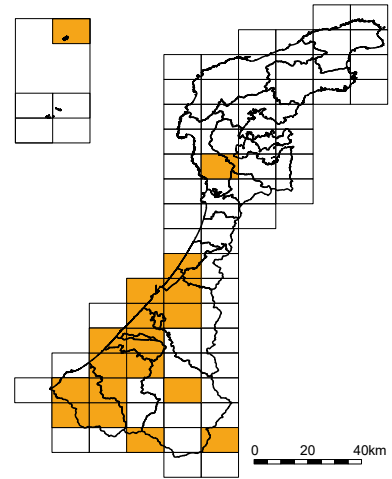
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー 準絶滅危惧種

- 選定理由 小型鳥類の捕食者として森林生態系の上位に位置するタカで、県内では少数が山地で局所的に繁殖していると推測される。
- 形態 全長雄32cm、雌39cm。雄よりも雌の方が大きい。ハト大のタカで、短い翼と長めの尾を持つ。雄は頭部など体の上面が青灰色で、下面は白色。胸から腹にかけて細かい橙褐色の横斑がある。雌は上面が褐色で、下面の横斑も褐色味が強い。雌雄とも白い眉斑がある。
- 生態 産卵期は本州では5月、抱卵日数は約33日、ひなはふ化後約30日で巣立ちする。秋期には南に渡る個体が観察される。小鳥類を主食とし、まれにリス・ネズミ類を捕食する。
- 国内分布 北海道と本州で繁殖し、冬期は西日本でも見られる。
- 県内分布 標高の高い山地で少数が繁殖していると推測される。秋の渡りの時期には加賀市、小松市、白山市の山地、金沢市医王山などの上空を、サシバ、ハチクマに混じって南に渡る個体が相当数観察されている。また冬期には低山や平野部でも見られる。
- 生息・生育環境 本州中部では標高500m以上の山地帯の森林に繁殖していると推測される。局所的な上、個体数も少ないと思われる。観察例も少なく、詳しい繁殖状況は分かっていない。
- 危険要因 山間部の開発や林業による伐採など、人間活動に脅かされる。
- 参考文献 3



矢田新平



竹田伸一

県内の分布

オオタカ

タカ目 タカ科

Accipiter gentilis (Linnaeus)

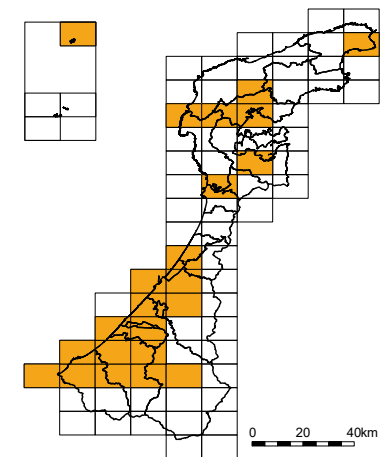
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー 準絶滅危惧種

- 選定理由 小型から中型の鳥獣の捕食者として、平地から丘陵においては生態系の頂点に、山地においては上位に位置するタカ。個体数は少なくないものの、人間の生活圏に近いところに生息するため、開発等によって脅かされやすい。
- 形態 全長約55cm。トビよりも小さいタカ。雄よりも雌の方が大きい。成鳥雄では上面は暗青灰色で下面は白く、黒色の細かい横斑が一面にある。顔には白い眉斑が目立つ。雌では全体に褐色味が強い。
- 生態 平地から山地の森林に生息し、大きな樹木に営巣する。抱卵期間は約35日、雛は孵化後約40日で巣立ちする。秋冬には平野部、河川や湖沼付近でも見られる。
- 国内分布 北海道、本州、四国、九州の平地から山地の林で繁殖する。近年、全国的に状況把握が進み、西日本や九州での繁殖も増え、最大で9,000羽程度の生息が見込まれるとされる。ただし、2000年代半ばを境に個体数は漸減している可能性も示唆されている。
- 県内分布 30年前までは県内では繁殖が知られず、初めて確認されたのは1990年であったが、その後相次いで繁殖が確認され、県内に広く分布していることが明らかになった。近年、加賀地方では平野部での営巣が見られるなど観察例が増加しており、能登地方でも新たな営巣箇所が確認されている。国内での分布拡大と漸減の両方の情報を鑑み、今後も繁殖状況などの動向を見守る必要がある。
- 生息・生育環境 餌となる鳥類や小動物の豊富な低山の森林、いわゆる良好な自然が残る里山。営巣する大きな樹木のある環境が必要。
- 危険要因 丘陵～山間部の開発や林業による伐採など、人間活動に脅かされる。
- 参考文献 3



富沢直浩



今森達也、竹田伸一

県内の分布

サシバ

タカ目 タカ科

Butastur indicus (Gmelin)

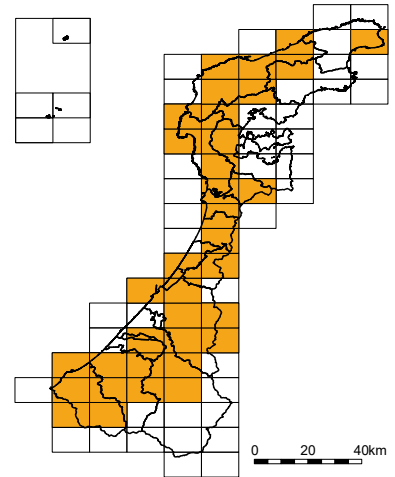
石川県カテゴリ 準絶滅危惧種

環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

- **選定理由** 個体数は少なくないものの、人間の生活圏に近い場所に生息するため、開発等により脅かされやすい。
- **形態** 全長約50cm。雄より雌の方がやや大きい。カラス大のタカ。頭部が灰褐色、上面や胸は茶褐色。喉は白く、中央に1本縦斑がある。腹など下面は白く、茶褐色の太い黄斑がある。
- **生態** 夏鳥として渡来し、丘陵部から低山帯の森林に生息する。主に昆虫類、両生類、爬虫類などを食べる。5月上旬頃より産卵し、約30日の抱卵後孵化、約35日で巣立ちする。春秋には渡りの群れが見られるが、特に秋には大きな群れを作って南下し、その様は「タカ渡り」と称される。
- **国内分布** 夏鳥として、本州、四国、九州に渡来し、南西諸島以南で越冬する。
- **県内分布** 夏鳥として、県内の丘陵部から低山の森林に渡来し繁殖する。秋の渡りの時期には加賀市、小松市、白山市、金沢市の山地の上空を、南へ渡る群れが観察されている。
- **生息・生育環境** 餌となる昆虫類や小動物の豊富な低山の森林、いわゆる良好な自然が残る里山。営巣する大きな樹木のある環境が必要。
- **危険要因** 丘陵～山間部の開発や林業による伐採、また餌場となる中山間地の水田荒廃など、人間活動に脅かされる。
- **参考文献** 3



矢田新平



竹田伸一

県内の分布

ノスリ

タカ目 タカ科

Buteo buteo (Linnaeus)

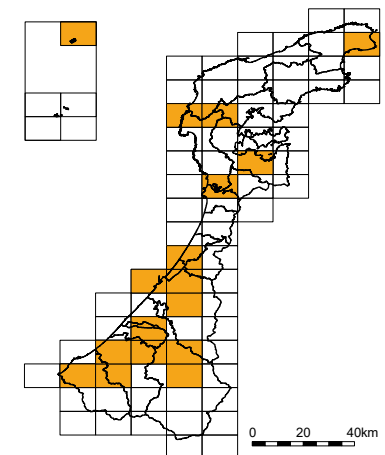
石川県カテゴリ 準絶滅危惧種

環境省カテゴリ なし

- **選定理由** 平地から山地において生態系の上位に位置するタカ。人間の生活圏に近いところに生息するため、開発等によって脅かされやすい。
- **形態** 全長約55cm。雄より雌の方がやや大きい。長く幅のある翼と短い尾羽を持ち、トビより少し小さなタカ。頭部は淡褐色だが、体の上面は暗褐色、胸から腹は淡褐色で腹から脇にかけて暗褐色の斑が帯状になっている。
- **生態** 留鳥として、低山帯から山地帯の森林に繁殖し、約30日の抱卵後孵化し、約40日で巣立ちする。ネズミなどの小型哺乳類を主食としている。
- **国内分布** 全国に広く分布しているが、北海道から本州中部以北、四国の一部では留鳥として繁殖している。一方、冬鳥として渡来するものも多く、全国の平野部で広く見られる。
- **県内分布** 20年程前までは平野部の農耕地、河川、湖沼の干拓地に渡来する冬鳥として知られていたが、初夏に能登半島で観察例があり、繁殖の可能性が指摘されていた。2000年に能登町で繁殖が確認されて以来、能登半島を中心に県内の山地で繁殖が見られるようになった。
- **生息・生育環境** 餌となる昆虫類や小動物の豊富な低山の森林、いわゆる良好な自然が残る里山。営巣する大きな樹木のある環境が必要。
- **危険要因** 丘陵～山間部の開発や林業による伐採など、人間活動に脅かされる。
- **参考文献** 3



中村正男



竹田伸一

県内の分布

アカショウビン

ブッポウソウ目 カワセミ科

Halcyon coromanda (Latham)

石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

■**選定理由** 県内に広く分布するものの個体数は多くなく、人工林の増加などによる営巣環境の減少が危惧される。

■**形態** 全長27cm。雌雄同色で、全身赤みを帯びた褐色。下面はやや淡く、黄色味を帯びている。嘴は赤く、大きく長い。

■**生態** 夏鳥として渡来し、林内の池や沢、溪流などでカエルやトカゲ、小魚、サワガニ、昆虫などを捕る。森林内の朽木やキツツキ類の古巣などを利用して繁殖する。スズメバチの古巣で繁殖した例もある。

■**国内分布** 夏鳥として全国に渡来し、平地から山地の森林に生息する。

■**県内分布** 夏鳥として渡来し、県内の森林に広く分布する。

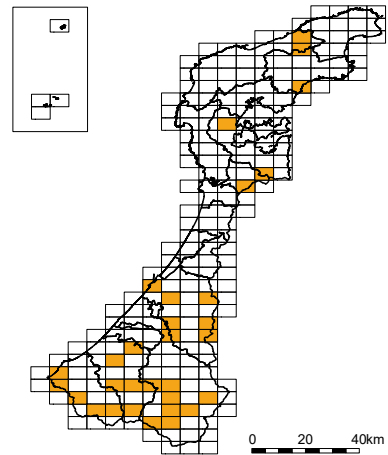
■**生息・生育環境** 営巣木となる木のある発達した森林と、餌動物が豊富な湿地、溪流。

■**危険要因** 森林伐採や開発など人間活動。かつて広く実施されていた山林の針葉樹林化による営巣木の減少。

■**参考文献** 4



広瀬弘一



竹田伸一

県内の分布

ハヤブサ

ハヤブサ目 ハヤブサ科

Falco peregrinus Tunstall

石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

■**選定理由** 小型の鳥類を主食とし、沿岸生態系の頂点に立つ鳥類。個体数は少なくないものの、人間の生活圏に近い場所に生息するため、開発等により脅かされやすい。

■**形態** 全長雄約40cm、雌約50cm。雄より雌の方がかなり大きい。体、翼、尾などの上面は暗青灰色、顔にはヒゲ状の黒斑がある。下面は白く、腹と脇には黒い横斑がある。幼鳥は上面が褐色で、下面には褐色の縦斑がある。飛翔時、翼の先端はタカ類の様に分かれず、尖って見える。

■**生態** 山地や海岸の断崖に繁殖する。産卵期は3~4月で、抱卵期間は約30日、雛は孵化後、約40日で巣立ちする。小型の鳥類を主食とし、海岸のシギ・チドリ類を捕食しているが、近年は市街地の高層ビルでも繁殖しており、ドバトなども多数捕獲している。

■**国内分布** 留鳥として北海道から九州まで広く生息するほか、冬鳥として沖縄を含む全国に渡来する。

■**県内分布** 県内の海岸の断崖で繁殖しているが、近年は金沢市内の高層ビルでも数番が繁殖しており、繁殖個体数はかつてに比べて増加している。また冬鳥として渡来するものがあり、海岸、河川、平野に見られている。

■**生息・生育環境** 外敵が近づきにくく、飛行に有利な上昇気流のある海岸の断崖や山地の岩棚。近年は高層ビルやダムなどの建造物での営巣も知られる。

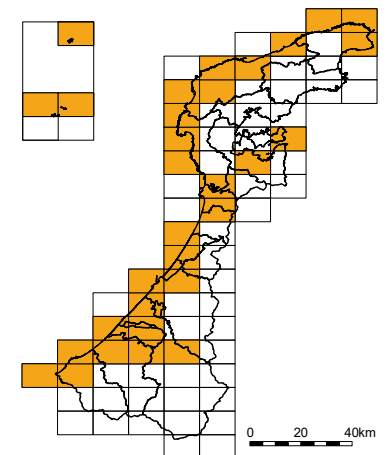
■**危険要因** 繁殖地である海岸の断崖に近づく釣り人など、人間活動に脅かされる。

■**特記事項** 国内希少野生動物植物種

■**参考文献** 3



中川富男



竹田伸一

県内の分布

コヨシキリ

スズメ目 ヨシキリ科

Acrocephalus bistrigiceps Swinhoe

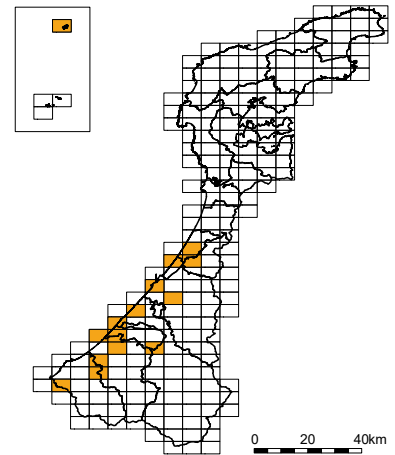
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 分布が局所的であり、近年、個体数が減少している。
- 形態 全長約14cm。上面は褐色で、胸、腹など下面は白色。白い眉斑があり、その上に黒褐色の線がある。
- 生態 夏鳥として渡来し、河川、湖沼付近の草原の他、山地の草原でも生息する。
- 国内分布 夏鳥として全国に渡来するが、主に本州中部以北で繁殖する。繁殖地は局地的である。
- 県内分布 夏鳥として渡来し、柴山潟、河北潟などの干拓地の草原に生息していたが、現在は著しく減少している。
- 生息・生育環境 比較的乾燥した広い草原。
- 危険要因 草原の耕地化や植生変化が考えられるが、詳しくはよく分かっていない。
- 参考文献 4



岡望



竹田伸一

県内の分布

セッカ

スズメ目 セッカ科

Cisticola juncidis (Rafinseque)

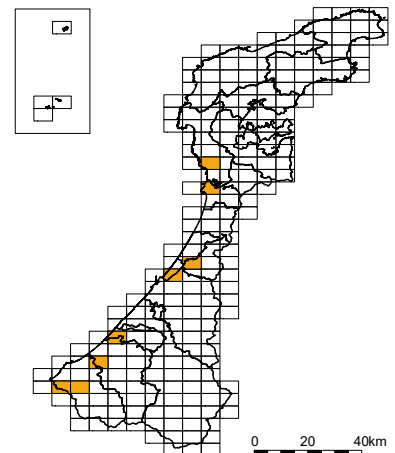
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 分布が局所的であり、近年、個体数が減少している。
- 形態 全長約12cm。雌雄同色。全身茶褐色で胸、腹など下面は淡い。白い眉斑がある。
- 生態 本州以南に留鳥、または漂鳥として分布し、湖沼の干拓地、河川敷などの草原、休耕田に生息する。
- 国内分布 本州以南に留鳥、または漂鳥として分布するが、関西以西、西日本に多く分布する。東北、北陸では局地的で、冬には暖地に移動する。
- 県内分布 夏鳥として渡来し、柴山潟、河北潟、邑知潟などの干拓地の草原の他、付近の休耕田に生息する。
- 生息・生育環境 比較的乾燥した広い草原。
- 危険要因 減少の原因はよく分かっていない。
- 参考文献 4



中本 總



竹田伸一

県内の分布

クログミ

スズメ目 ヒタキ科

Turdus cardis Temminck

石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

■選定理由 近年、個体数が減少している。

■形態 全長22cm。雄は頭部から尾まで上面が灰黒色。下面は喉まで黒く、胸からは白く、胸から脇には黒斑がある。嘴は黄色。雌は上面が暗褐色で、喉から下面は白。胸から脇にかけて黒斑がある。

■生態 夏鳥として渡来し、明るい開けた森林に生息する。主に地上で昆虫類やミミズなどを捕食する。繁殖期は5～7月、抱卵期間は約2週間、孵化後11～12日で巣立ちする。

■国内分布 夏鳥として九州以北に渡来し、平地から山地の森林に生息する。南日本では越冬することもある。

■県内分布 県内の平地から山地の森林に広く生息する。金沢周辺の海岸林にも繁殖していたが、現在は著しく減少している。山地では変化は見られないが、海岸林での繁殖個体が減少している。

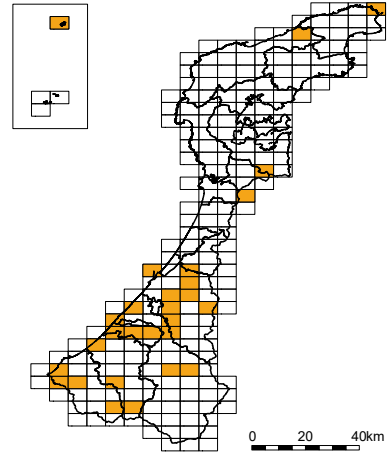
■生息・生育環境 平地から山地の明るい開けた森林。

■危険要因 温暖化の影響も指摘されるが、詳しい理由はよく分かっていない。

■参考文献 4



田中秀雄



竹田伸一

県内の分布

ホオアカ

スズメ目 ホオジロ科

Emberiza fucata Pallas

石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

■選定理由 近年個体数が減少している。

■形態 全長16cm。雌雄ほぼ同色。夏羽の頭部は灰色で、黒褐色の斑点が密にある。頬は赤褐色で名前の由来となっている。体の上面は茶色で黒褐色の縦斑がある。喉は白く、胸にかけて黒い縦斑がある。胸、腹など下面は淡い茶色。

■生態 繁殖期は5～7月。抱卵は約2週間、約10日で巣立ちする。

■国内分布 九州以北に留鳥、または漂鳥として生息する。東日本のものは、冬は西日本、九州などの暖地に渡る。平地から山地の牧草地、河川敷、農耕地などの草原に生息する。

■県内分布 柴山瀧、河北瀧などの草原や牧草地、能美市の放牧場などに生息、繁殖している。

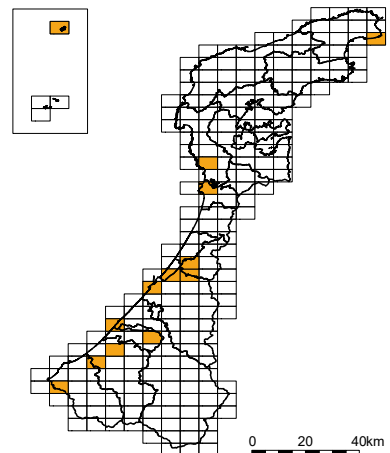
■生息・生育環境 広い草原、牧草地。

■危険要因 農業活動などの影響もあるが、詳しい理由はよく分かっていない。

■参考文献 4



中本 聡



竹田伸一

県内の分布

ジュウイチ

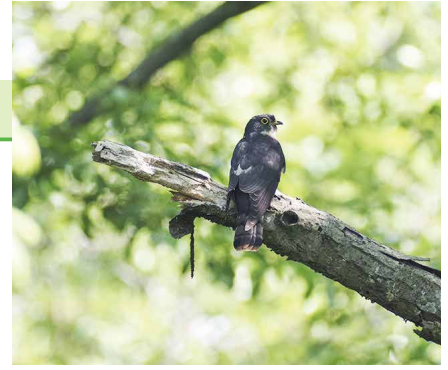
カッコウ目 カッコウ科

Hierococcyx hyperythrus (Gould)

石川県カテゴリー 情報不足

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 加賀地方の山地に生息し近年減少していると推測されるが、情報が不足している。
- 形態 全長32cm。雌雄同色。頭部から背など上面は灰黒色で、後頭部に白斑がある。胸から腹は淡い橙色。目の周りは黄色。尾には数本黒帯があり、ツカカの尾のように見える。
- 生態 夏鳥として九州以北に渡来し、コルリなどの小鳥の巣に托卵する。
- 国内分布 九州以北の山地の森林に渡来し繁殖するが、主な生息地は本州中部以北。
- 県内分布 金沢市や小松市、白山山系の山地で繁殖していると推測されるが、実態はよく分かっていない。渡りの時期には平地でも観察されることがある。
- 生息・生育環境 山地の森林。
- 危険要因 森林伐採等が心配されるが、よく分かっていない。
- 参考文献 4



田中秀雄



竹田伸一

県内の分布

ハリオアマツバメ

アマツバメ目 アマツバメ科

Hirundapus caudacutus (Latham)

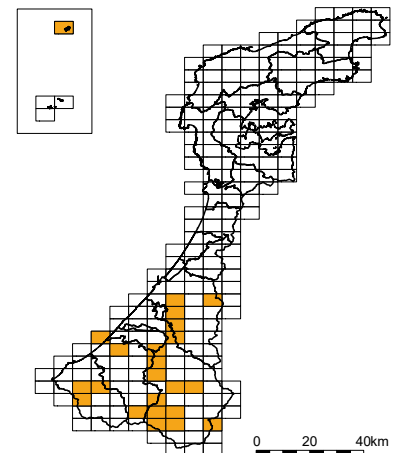
石川県カテゴリー 情報不足

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 繁殖期に白山麓で観察され、繁殖が推測されるが、詳細が分からず情報が不足している。
- 形態 全長21cm。雌雄同色。全身ほぼ黒褐色だが、額、喉、下尾筒が白い。翼は細長く鎌型をしている。尾は短く、尾羽の先端が針のように尖っており、名前の由来となっている。
- 生態 繁殖期以外は空中生活を送り、地上はもちろん樹上に止まることもほとんどないといわれている。空中で昆虫類を食べ、繁殖は大きな木の樹洞で行うといわれている。
- 国内分布 夏鳥として本州中部以北に渡来し、本州では山地の森林、北海道では平地の草原でも見られる。春秋の渡りの時期には平地の上空でも見ることができる。
- 県内分布 かつては春秋の渡りの時期のみの記録だったため旅鳥とされていたが、白山麓で繁殖期も観察されるようになり、県内でも繁殖の可能性がある。
- 生息・生育環境 営巣木となる巨樹のある山地の森林。
- 危険要因 森林伐採などが考えられるが、よく分かっていない。
- 参考文献 4



林宏初



竹田伸一

県内の分布

アマツバメ

アマツバメ目 アマツバメ科

Apus pacificus (Latham)

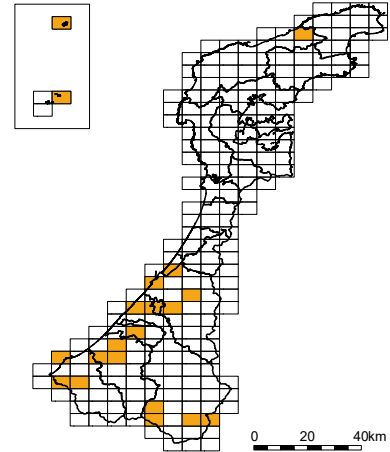
石川県カテゴリー 情報不足

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** セツ島の海食崖や白山で観察され、繁殖が推測されるが、詳細が分からず情報が不足している。
- **形態** 全長20cm。雌雄同色。全身ほぼ黒褐色で腰が白い。翼は細長く、鎌形をしている。
- **生態** 繁殖期以外は空中生活を送り、地上はもちろん樹上に止まることもほとんどないといわれている。空中で昆虫類を食べ、繁殖は山地や海岸の断崖で行うといわれている。
- **国内分布** 夏鳥として全国に渡来し、海岸や山地、高山の上空に見られる。春秋の渡りの時期には平地の上空でも群れが見られる。
- **県内分布** 輪島市セツ島の海食崖、白山の断崖で繁殖していると思われる。渡りの時期には県内各地、平地の上空でも見られる。
- **生息・生育環境** 海岸や山地の断崖。
- **危険要因** よく分かっていない。
- **参考文献** 4



富沢直浩



竹田伸一

県内の分布

マダラウミスズメ

チドリ目 ウミスズメ科

Brachyramphus perdix (Pallas)

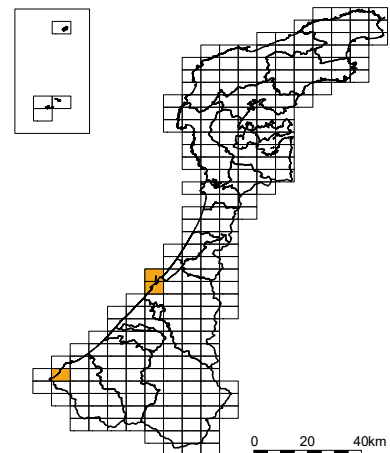
石川県カテゴリー 情報不足

環境省カテゴリー 情報不足

- **選定理由** 近年減少していると推測されるが、情報が不足している。
- **形態** 全長24cm。雌雄同色。背など体の上面は黒色、喉、胸、腹は白色。洋上では肩に白い大きな白斑が目立つ。
- **生態** 海上に生息し、潜って小魚などを捕る。
- **国内分布** 冬鳥として北海道、東北、北陸などの沿岸に渡来する。北海道東部では繁殖も予想されている。
- **県内分布** 冬鳥として加賀地方の沿岸海上に少数が渡来するが、近年の記録はほとんどなく、加賀市、内灘町の記録があるのみである。
- **生息・生育環境** 磯浜、内湾には見られず、砂浜海岸の沿岸海上に見られるが、詳細は不明。
- **危険要因** 刺し網など漁業による混獲、重油流出など海洋汚染が考えられるが、実態はよく分かっていない。
- **参考文献** 3



富沢直浩



竹田伸一

県内の分布

キバシリ

スズメ目 キバシリ科

Certhia familiaris Linnaeus

石川県カテゴリー 情報不足

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 加賀地方の山地に生息し繁殖が推測されるが、情報が不足している。
- 形態 全長14cm。雌雄同色。上面は褐色で、白と黒の縦斑があり、下面は白。嘴は細長く下に湾曲している。
- 生態 主食は昆虫類、木らせん状に上りながら採食し、地上に降りることはない。繁殖期は4～5月といわれ、産卵、育雛期間とも約2週間。
- 国内分布 留鳥として、九州以北の低山から亜高山までの森林に生息、北海道では平地でも見られる。北日本のものは冬に南下するといわれる。
- 県内分布 白山山系の森林に生息していると思われるが、実態はよく分かっていない。白山市では低地の林でも観察例があり、輪島市舳倉島、七ツ島では渡りの途中と思われる個体が観察されている。
- 生息・生育環境 山地の森林、針葉樹林。
- 危険要因 森林伐採等が心配されるが、よく分かっていない。
- 参考文献 4



田中秀雄



竹田伸一

県内の分布

オオミズナギドリ 七ツ島の繁殖個体群

ミズナギドリ目 ミズナギドリ科

Calonectris leucomelas (Temminck)

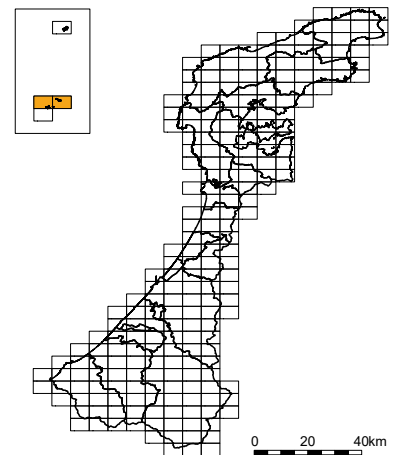
石川県カテゴリー 地域個体群

環境省カテゴリー なし

- 選定理由 石川県では七ツ島でのみ繁殖し、国内でも貴重な繁殖地の一つであること。
- 形態 全長48cm。翼開長120cm。雌雄同色。頭部は白色で黒褐色斑があり、背など上面は黒褐色、頸から胸、腹、下面は白色。嘴は青灰色。
- 生態 海上で小魚やイカなどを捕食し、離島で集団繁殖する。3月頃渡来し、繁殖を終えて11月頃に渡去し、熱帯海域で越冬する。地面に穴を掘って白色の卵を1個産み、雌雄交代で抱卵する。抱卵交代や雛への給餌は日没後に行われる。
- 国内分布 日本近海の離島で集団繁殖する。日本の主な繁殖地は北海道渡島大島、岩手県陸中海岸、東京都伊豆諸島、京都府冠島、島根県隠岐諸島、福岡県沖ノ島など。
- 県内分布 輪島市七ツ島の大島を中心に、荒三子島、御厨島でも繁殖する。
- 生息・生育環境 人や天敵となる小動物が近づけない離島など。巣穴を掘ることのできる土壌を有し、周辺海域に餌となる豊富な水産資源があること。
- 危険要因 ドブネズミ等の侵入動物による繁殖地の攪乱と食害。
- 特記事項 最新の2018年の個体数調査では過去最大60,000羽の生息が推測された。京都府冠島など幾つかの繁殖地が国指定天然記念物（地域指定）になっている。
- 参考文献 6, 12, 13



矢田新平



竹田伸一

県内の分布

ウミウ 七ツ島の繁殖個体群

カツオドリ目 ウ科

Phalacrocorax capillatus (Temminck & Schlegel)

石川県カテゴリー 地域個体群

環境省カテゴリー なし

■**選定理由** 石川県では七ツ島でのみ繁殖し、本州での貴重な繁殖地の一つであること。

■**形態** 全長84cm。全身黒褐色の中型の水鳥。雌雄同色。繁殖には雌雄とも頭部が白くなり、足の付け根にも白斑を生じる。

■**生態** 断崖の多い海岸や港湾の堤防などに生息し、海中に潜って小魚などを捕食する。

■**国内分布** 北海道から九州北部の離島の断崖などで小規模に集団繁殖する。北海道天売島、新潟県粟島の繁殖地は国の天然記念物に指定されている。繁殖地周辺では通年見られるが、冬期は南に渡るものも多い。

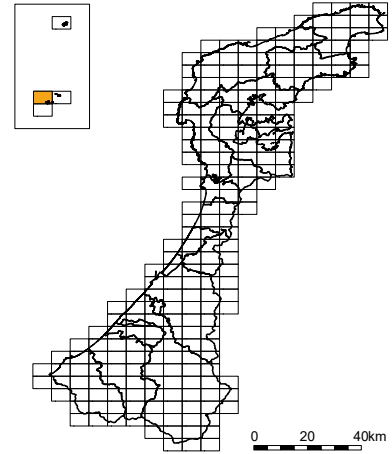
■**県内分布** 県内の岩礁海岸に広くみられるが、繁殖は輪島市七ツ島烏帽子島のみである。

■**生息・生育環境** 人や天敵となる小動物が近づけない離島などの断崖。周辺海域に餌となる豊富な水産資源があること。

■**危険要因** 重油流出など海洋汚染。



矢田新平



竹田伸一

県内の分布

ミユビシギ 加賀海岸の越冬個体群

チドリ目 シギ科

Calidris alba (Pallas)

石川県カテゴリー 地域個体群

環境省カテゴリー なし

■**選定理由** 高松・河北海岸はミユビシギの大きな群れが越冬する国内3ヶ所のうちの1つ。個体数も国内で越冬する数の4分の1以上を占める。

■**形態** 全長20cm。冬羽では上面灰白色、下面は白色。嘴と足は黒色。夏羽では頸、胸にかけて茶褐色の細かい斑が表れる。

■**生態** 砂浜海岸に生息し、波打ち際で波に合わせて走り、甲殻類や小貝類を食べる。

■**国内分布** 北極圏で繁殖し、冬期はオーストラリアなどに渡り、越冬する。日本には春秋の渡りの時期に砂浜海岸に渡来し、一部は越冬する。主な越冬地は千葉県九十九里浜、鹿児島県吹上浜、石川県河北海岸である。

■**県内分布** 春秋の渡りの時期に加賀地方の砂浜海岸に見られるが、高松から河北海岸では約400羽の群れが越冬する。

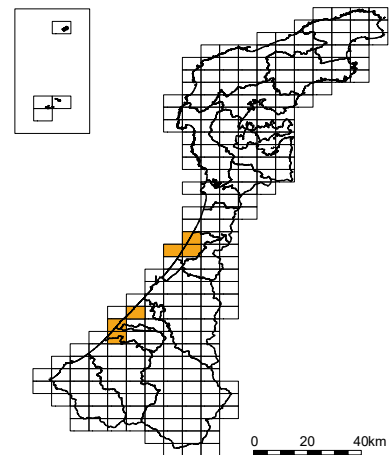
■**生息・生育環境** 餌となる小型甲殻類の多い砂浜海岸。

■**危険要因** 浸食による砂浜海岸の減少や消失。

■**参考文献** 3, 10



中村正男



竹田伸一

県内の分布

イワヒバリ 白山の繁殖個体群

スズメ目 イワヒバリ科

Prunella collaris (Scopoli)

石川県カテゴリ 地域個体群

環境省カテゴリ なし

■**選定理由** 石川県では白山の高山帯のみに生息し、個体数も少ない。また本個体群は日本の繁殖分布西限にあたる重要な個体群である。

■**形態** 全長18cm。雌雄同色。頭部から胸は灰色。体は明るい褐色。上面には黒色の縦斑があり、翼、尾羽は黒褐色。

■**生態** 繁殖期以外は小さな群れで生活し、婚姻形態は乱婚といわれる。食性は雑食。春夏は主に昆虫類、秋冬は種子を食べる。

■**国内分布** 本州中部山岳の高山帯に繁殖し、冬期は山地帯の谷に下り越冬する。西日本には高山帯のある山岳はないため、白山が国内の繁殖地の西限となる。

■**県内分布** 白山の高山帯に繁殖し、冬期は山麓の谷に下り越冬する。

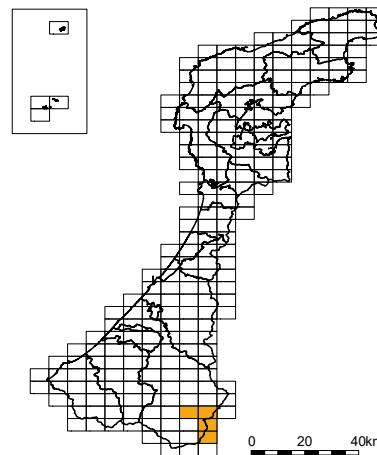
■**生息・生育環境** 標高2,400m以上の山岳高山帯。

■**危険要因** 高山帯の開発行為。環境破壊のみならず、ゴミ増加によるカラスやキツネなどの捕食動物増加のおそれ。

■**参考文献** 4, 9



林 宏初



県内の分布

参考文献一覧

- 1 花井正光・徳本 洋 1976 白山におけるニホンライチョウの絶滅について 白山自然保護センター研究報告 第3集:95-106
- 2 林宏・岡田徹1992 わが国におけるコアジサシの繁殖状況 Strix11
- 3 日高敏孝(監)1996 日本動物大百科3鳥類 I 平凡社
- 4 日高敏孝(監)1997 日本動物大百科4鳥類 II 平凡社
- 5 平野敏明 2010 バードリサーチ生態図鑑(Bird Research News Vol.7 No.5)
- 6 いであ株式会社 2018 セツ島鳥獣保護区保全事業実施業務報告書
- 7 飯田知彦 2009 バードリサーチ生態図鑑(Bird Research News Vol.6 No.8)
- 8 白山自然保護センター 1983. 白山の自然史4 イヌワシの生態 石川県
- 9 環境省 2008~2018 モニタリングサイト1000シギチドリ類調査報告
- 10 川名国男 2010 ミゾゴイの囀り活動 山階鳥類学雑誌 42.
- 11 日本野鳥の会石川支部 1986 舳倉島・セツ島の自然 石川県
- 12 日本野鳥の会石川支部 2008 セツ島鳥類等生息調査業務報告書 環境省
- 13 須藤明子 2012 バードリサーチ生態図鑑(Bird Research News Vol.9 No.5)
- 14 内田博 2007 バードリサーチ生態図鑑(Bird Research News Vol.4 No.6)
- 15 植松永至 2009 バードリサーチ生態図鑑(Bird Research News Vol.6 No.9)
- 16 植田睦之 2010 バードリサーチ生態図鑑(Bird Research News Vol.7 No.1)
- 17 白山自然保護センター 1997 白山の自然史17 イワヒバリの生態 石川県
- 18 上馬康生・佐川隆久 2011 白山におけるライチョウの生息可能数の推定と絶滅について 白山自然保護センター研究報告 第38集:47-56
- 19 山田泰広 2007 バードリサーチ生態図鑑(Bird Research News Vol.4 No.1)

総括的な参考文献

- 日本野鳥の会 石川支部 1998 石川の自然環境シリーズ 石川県の鳥類 石川県
日本野鳥の会 2009 いしかわレッドデータブック2009(動物編) 石川県
日本野鳥の会 2008~2014 石川野鳥年鑑
日本鳥学会 2012 日本鳥類目録改訂第7版